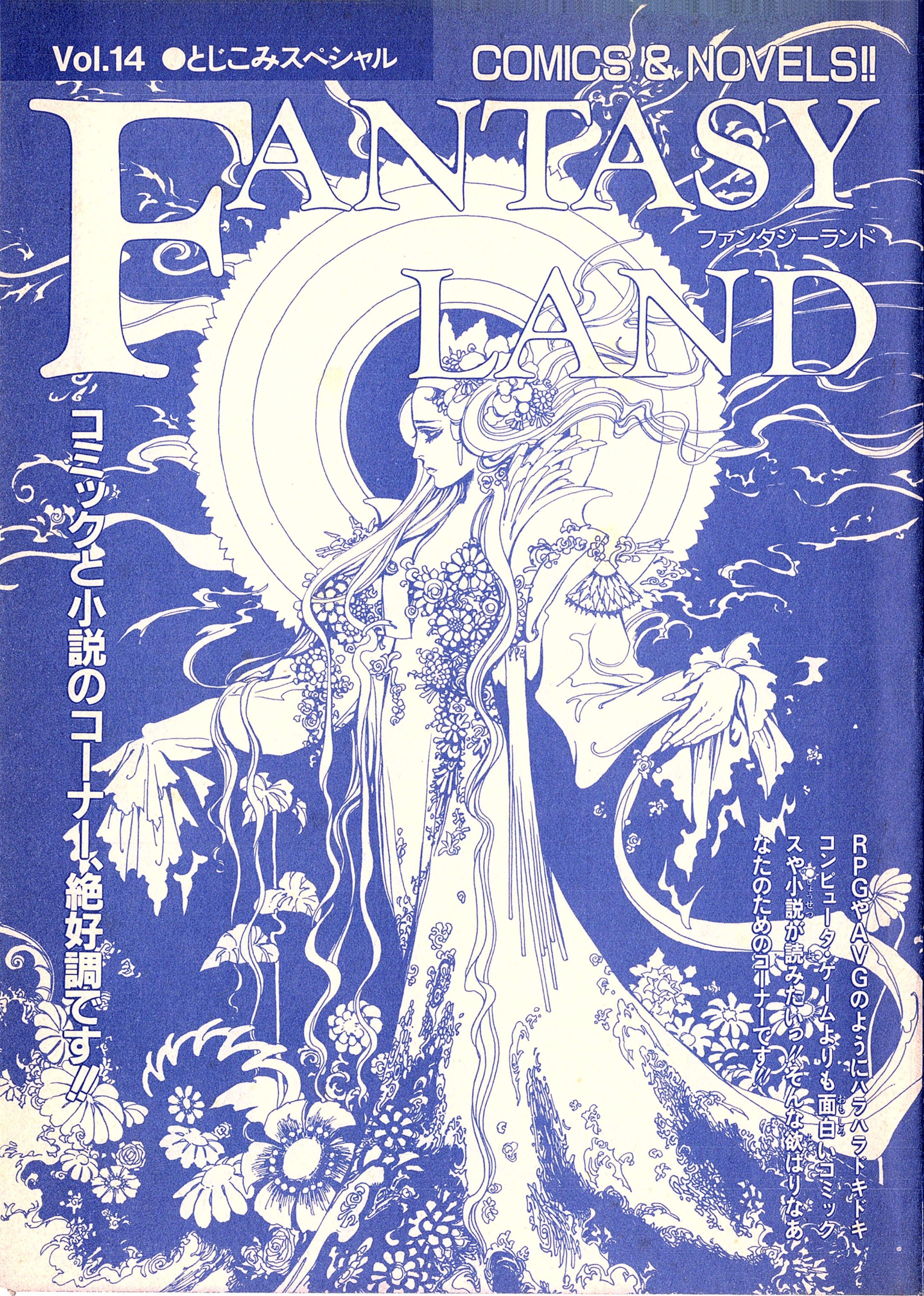

Vol.14 ●とじこみスペシャル
COMICS & NOVELS!!
FANTASY LAND
ファンタジーランド
コミックと小説のコーナー、絶好調です!!
RPGやAVGのようにハラハラドキドキ
コンピュータ・ゲームよりも面白いコミックスや小説が読みたいっ!!そんな欲ばりなあなたのためのコーナーです!!

CONTENTS

FANTASY LAND

Wizardry®



ウィザードリィ外伝 第2部

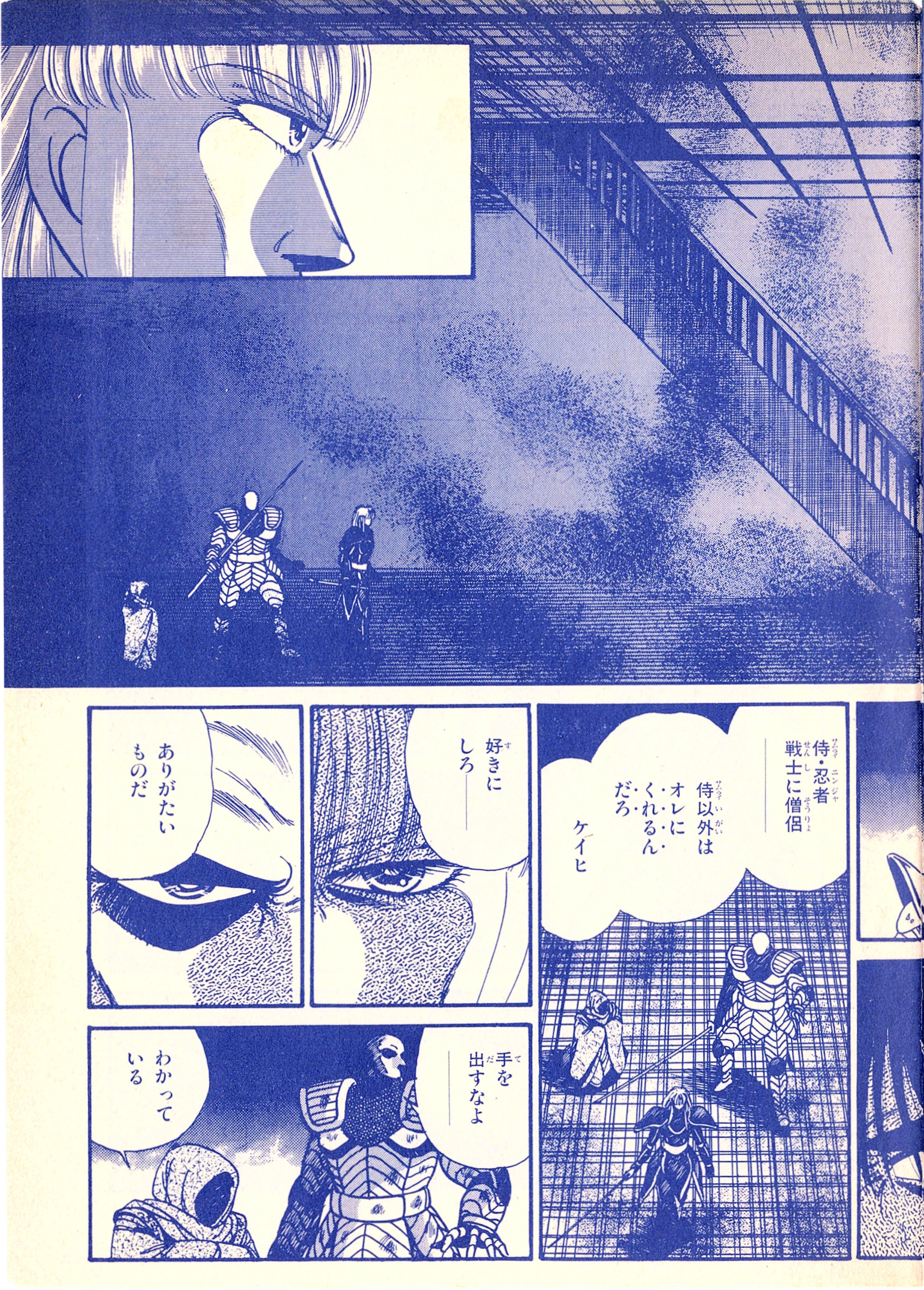
鳳凰の塔

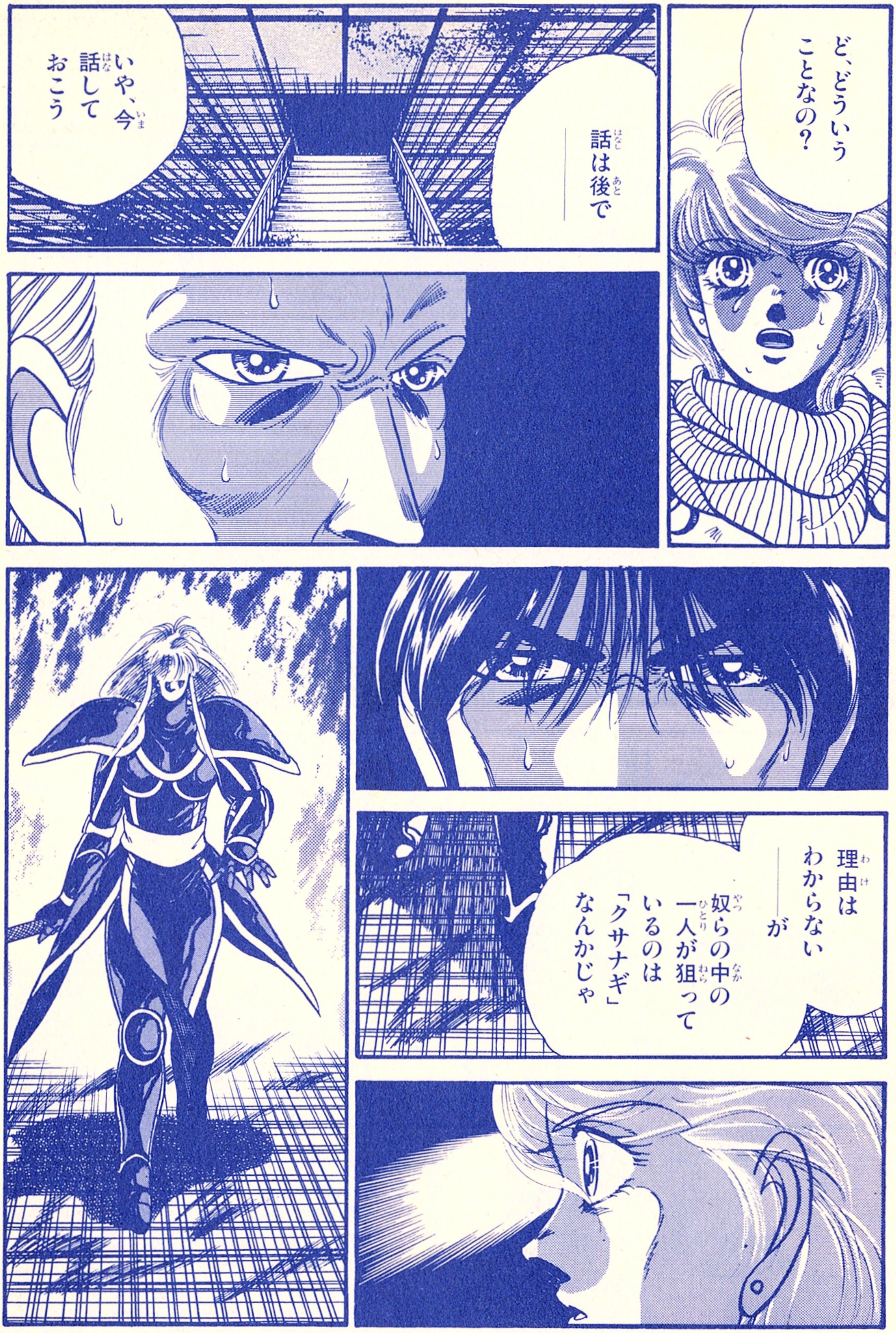
第10話「遭遇」

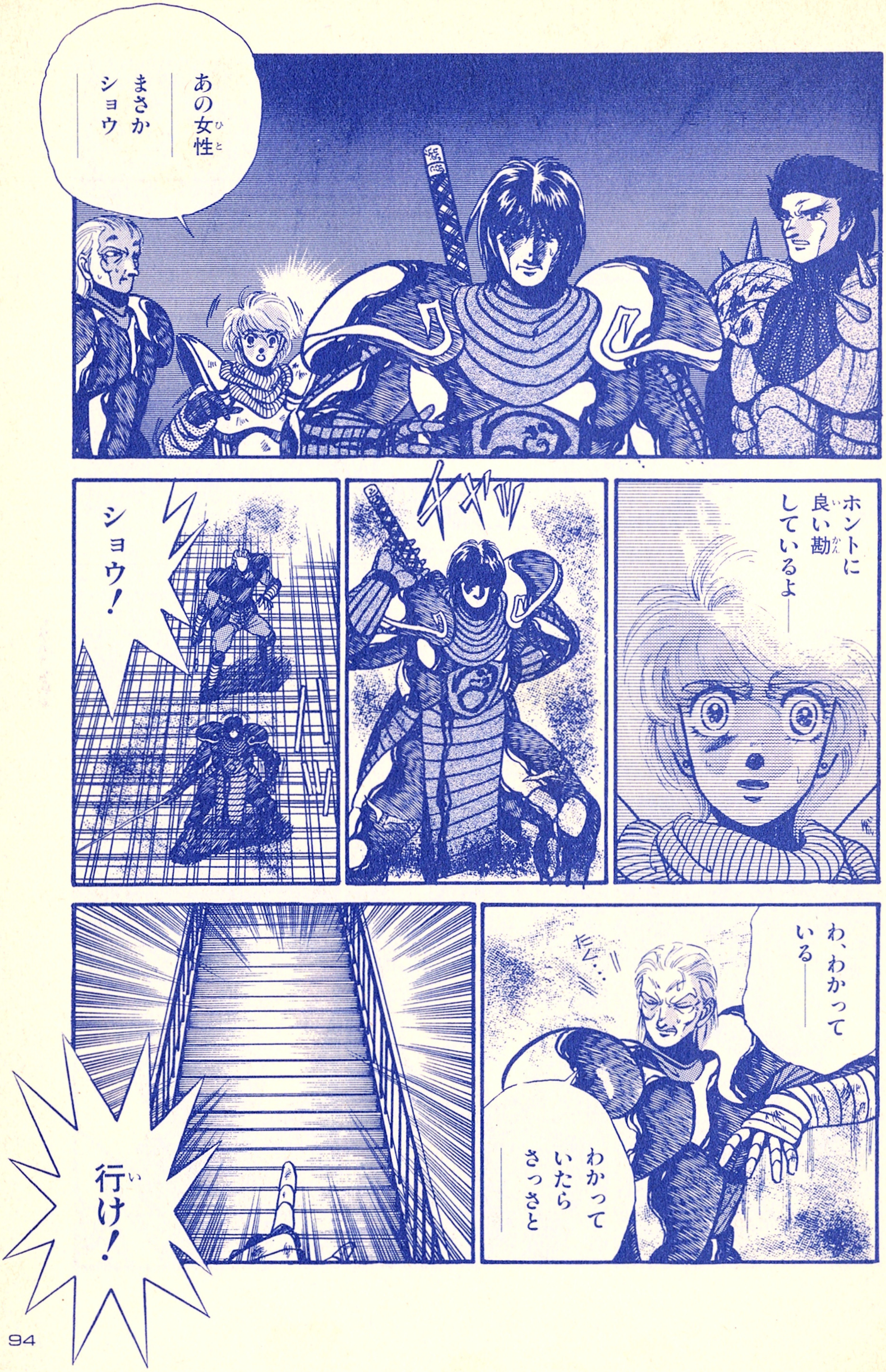
作/石垣環



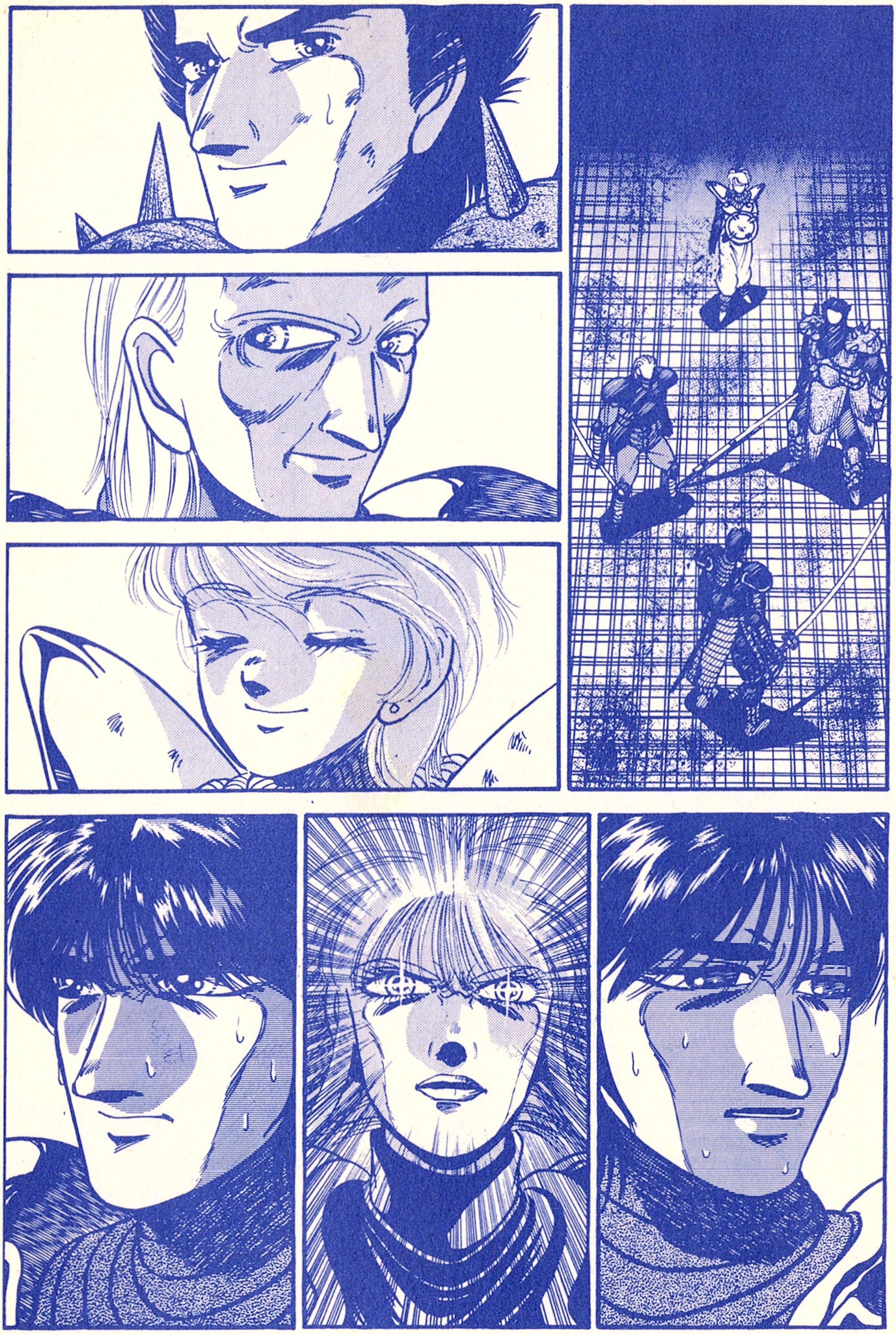
あの人達も「クサナギ」を探しに来たのかしら?
そんなに生易しい奴らだと良いんだがな――
ショウ わかってるな ここでは戦うなよ
ああ――

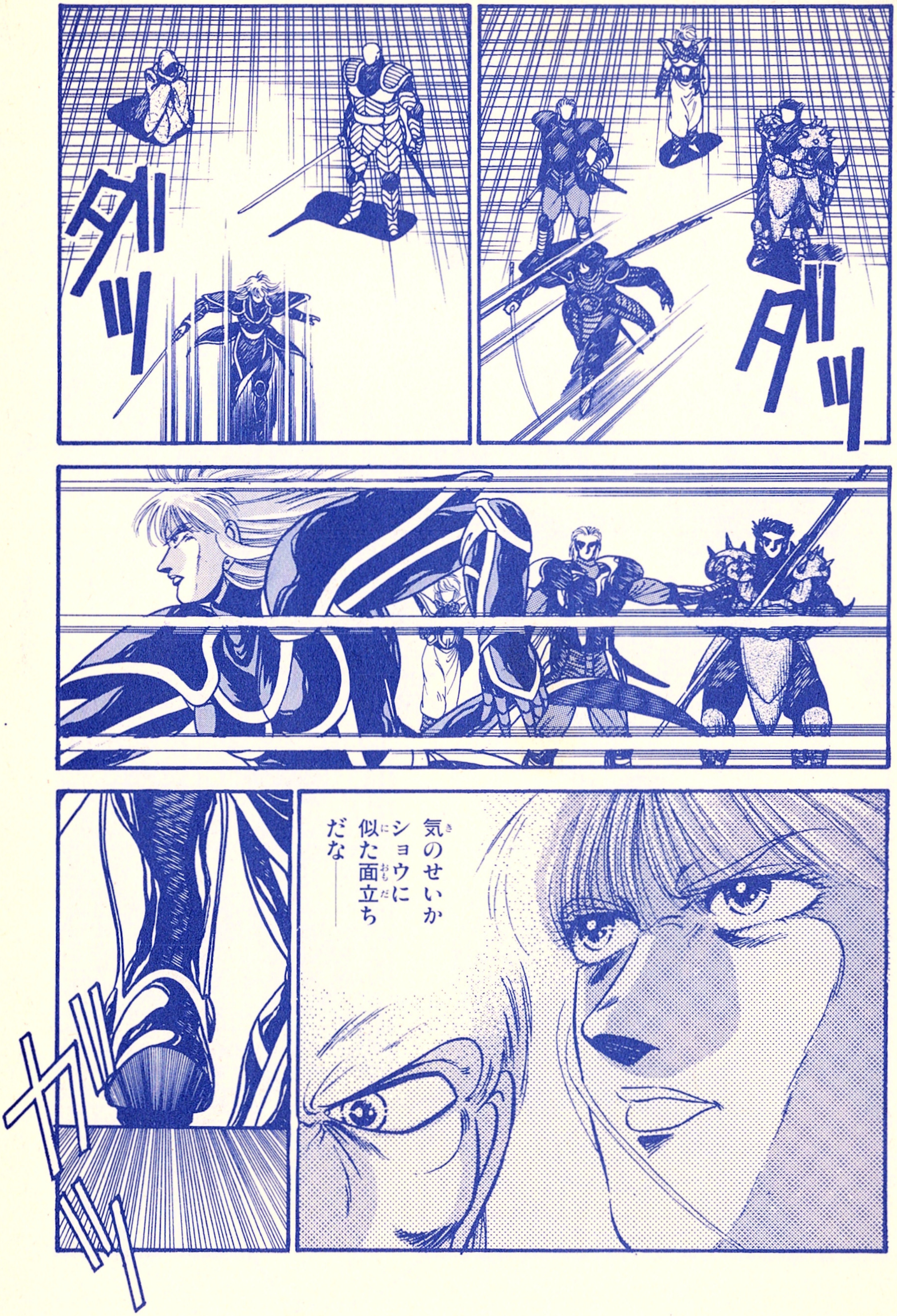

侍・忍者
戦士に僧侶
侍以外はオレにくれるんだろ
ケイヒ
好きにしろ――
ありがたいものだ
手を出すなよ
わかっている

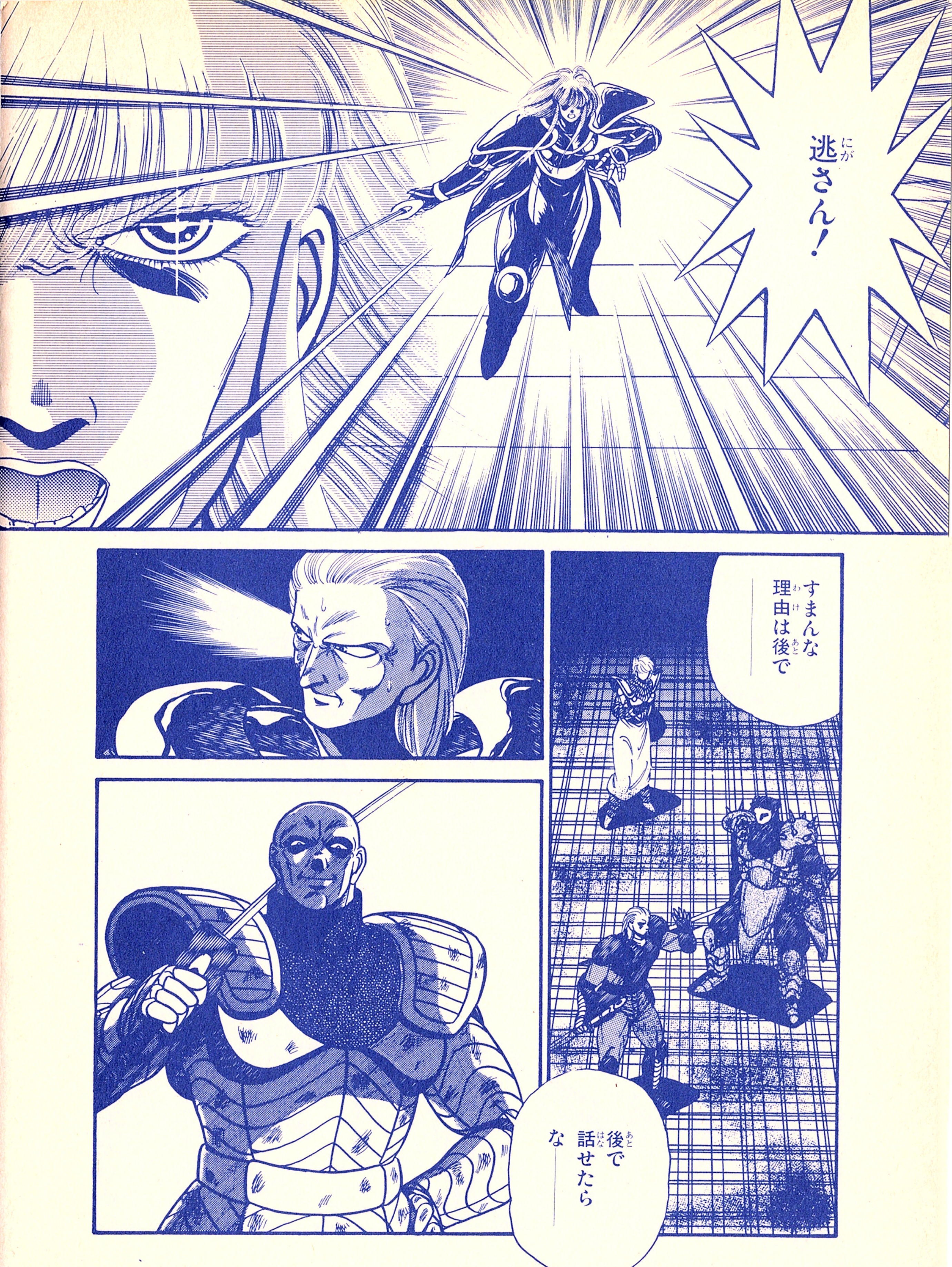

ど、どういうことなの？
話は後で——
いや、今話しておこう
理由はわからない——が
奴らの中の一人が狙っているのは「クサナギ」なんかじゃ



あの女性(ひと)
まさか
ショウ
ホントに
良い勘(かん)
しているよ——
ショウ!
わ、わかって
いる——
わかって
いたら
さっさと
行(い)け!



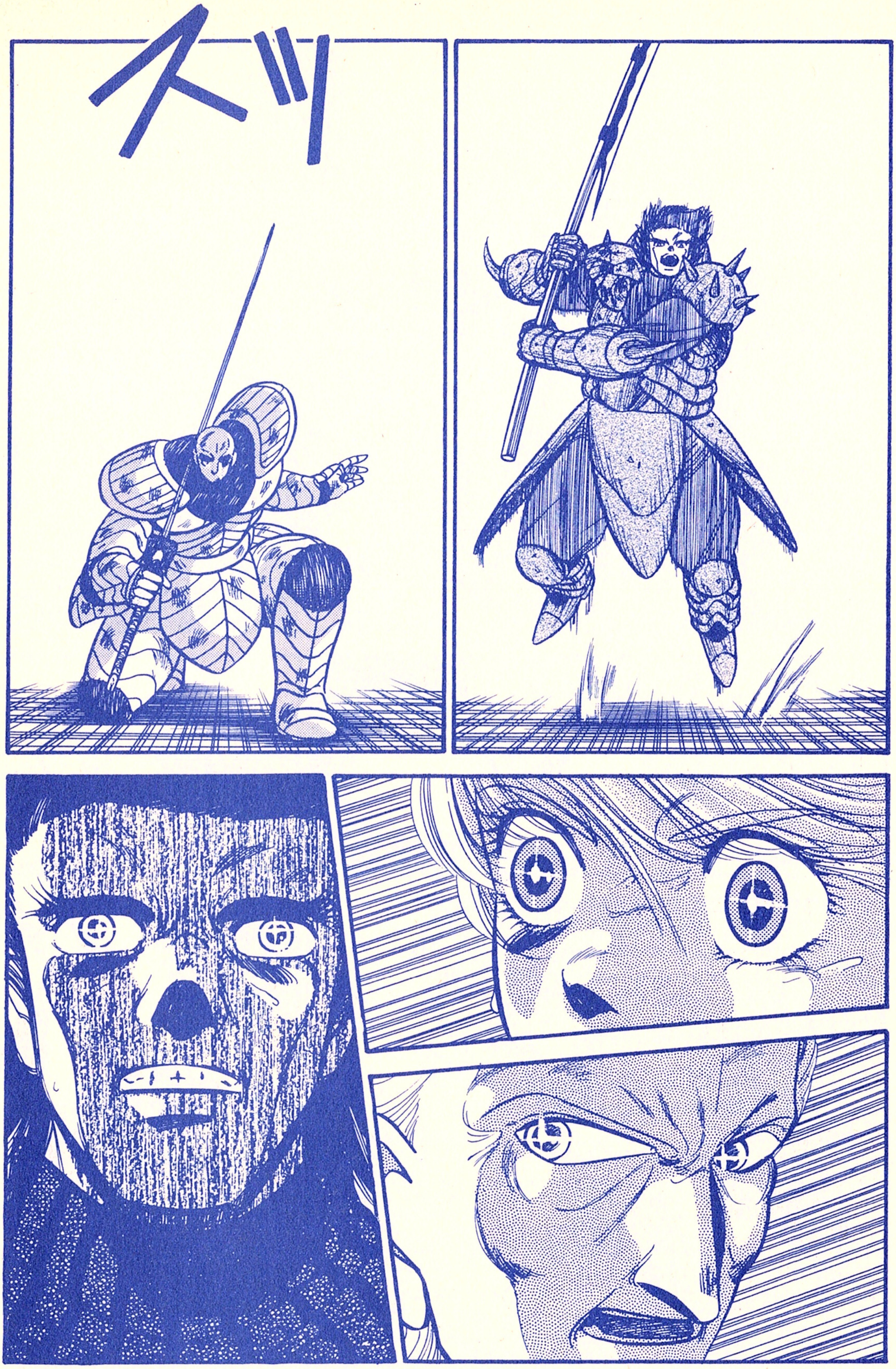

ダッ
ダッ
気のせいか ショウに 似た面立ち だな——
カッ


逃さん！
すまんな 理由は後で
後で 話せたら な——

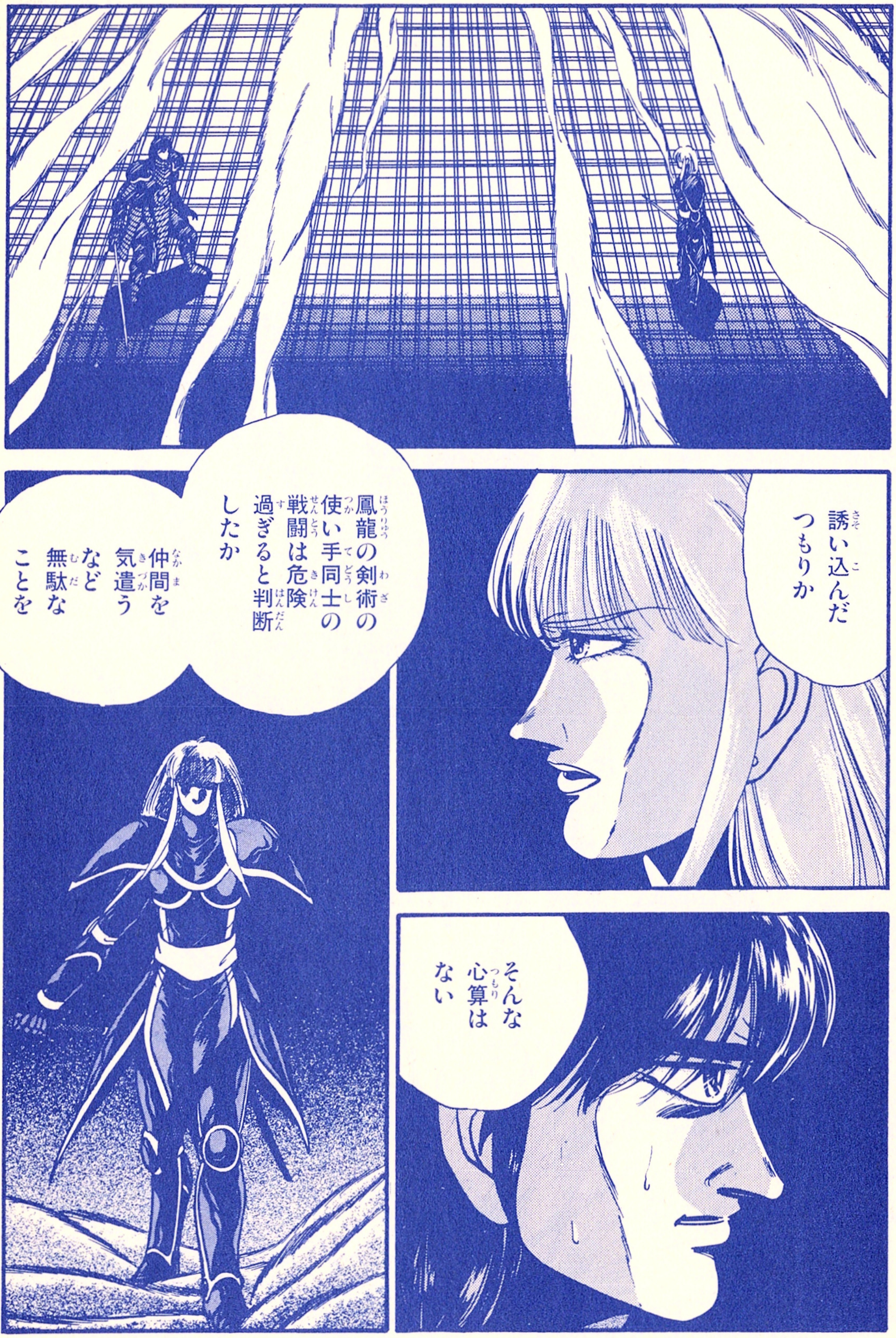

こ、こいつ――
ん!
テツ リィナ 下っていろ
コウ 下がれ
サンザ! どうして
危険だからだ
テツお前が嫌う今時のボンクラ侍とは異なるぞ彼奴は――

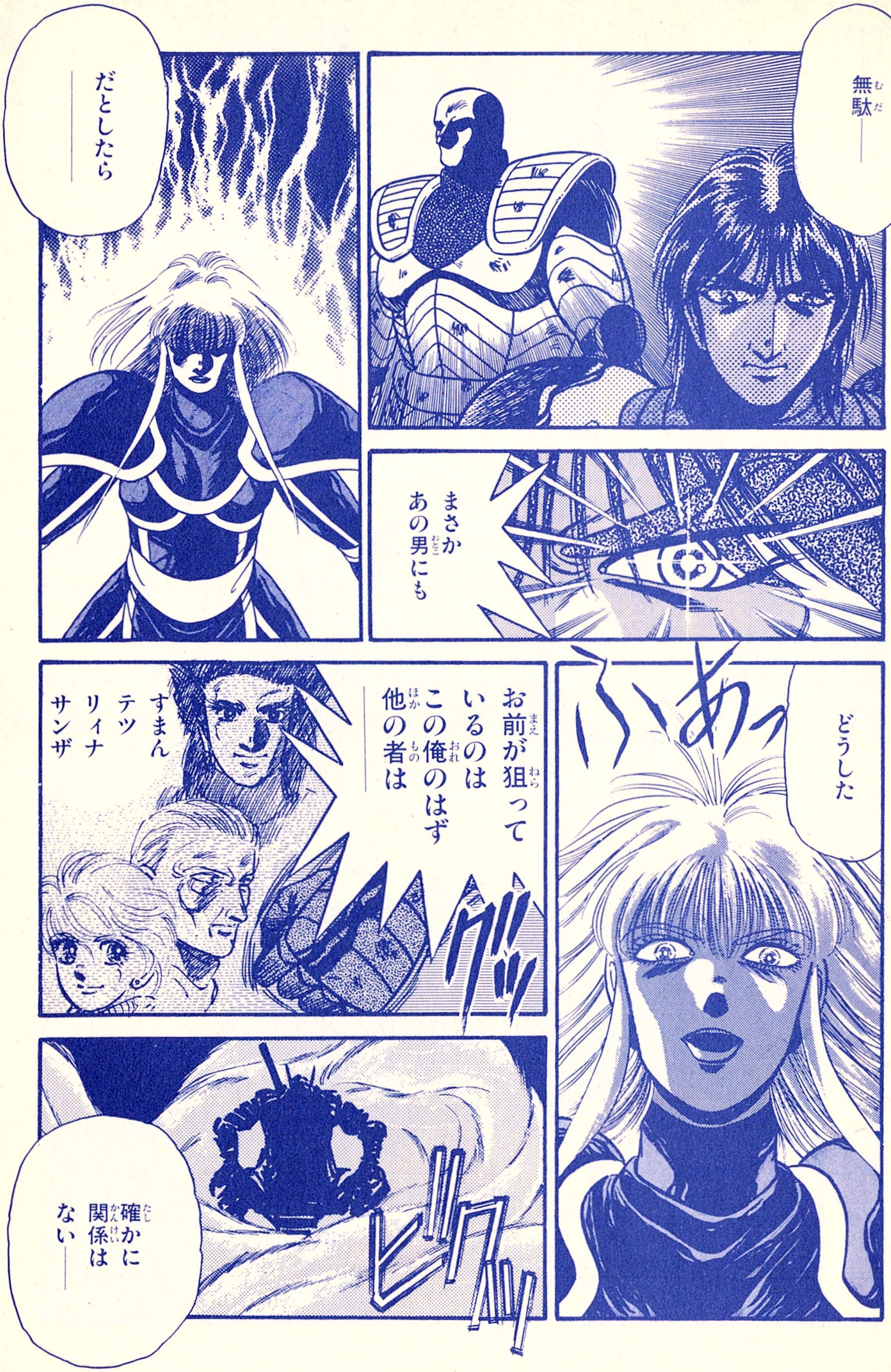

なかなかやるじゃねーか忍者野郎
──
グッ
化物女侍やてめえの相棒には敵わないがな──
人殺しを稼業にしている眼だなその眼は──


ケッ！
忍者風情に云われる筋合いはネエよ
テッ！ダメッ
ダッ
テッ！


ズッ


鳳龍千手斬(ほうりゅうせんじゅざん)!

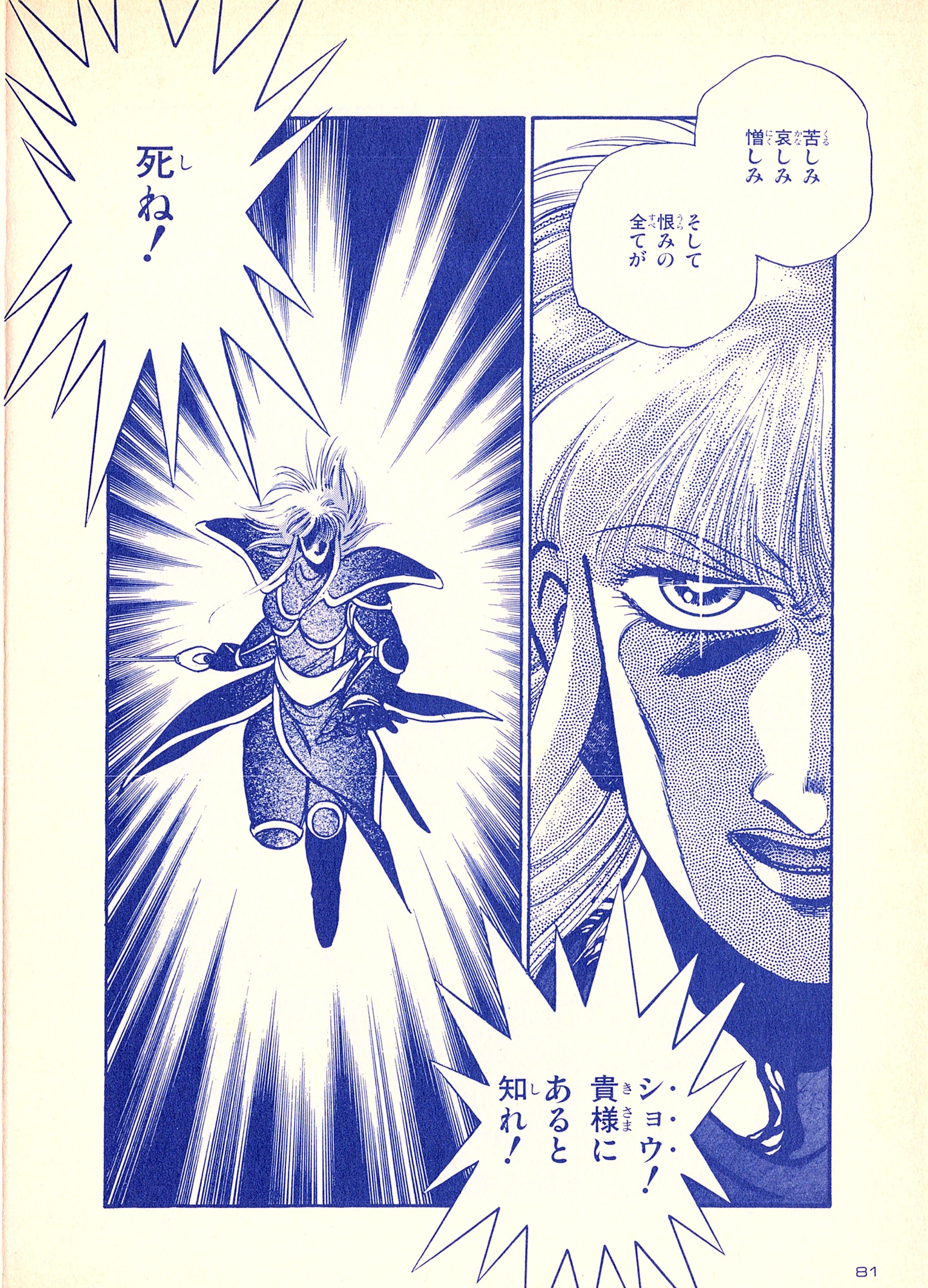

誘い込んだつもりか
鳳龍の剣術の使い手同士の戦闘は危険過ぎると判断したか
仲間を気遣うなど無駄なことを
そんな心算はない

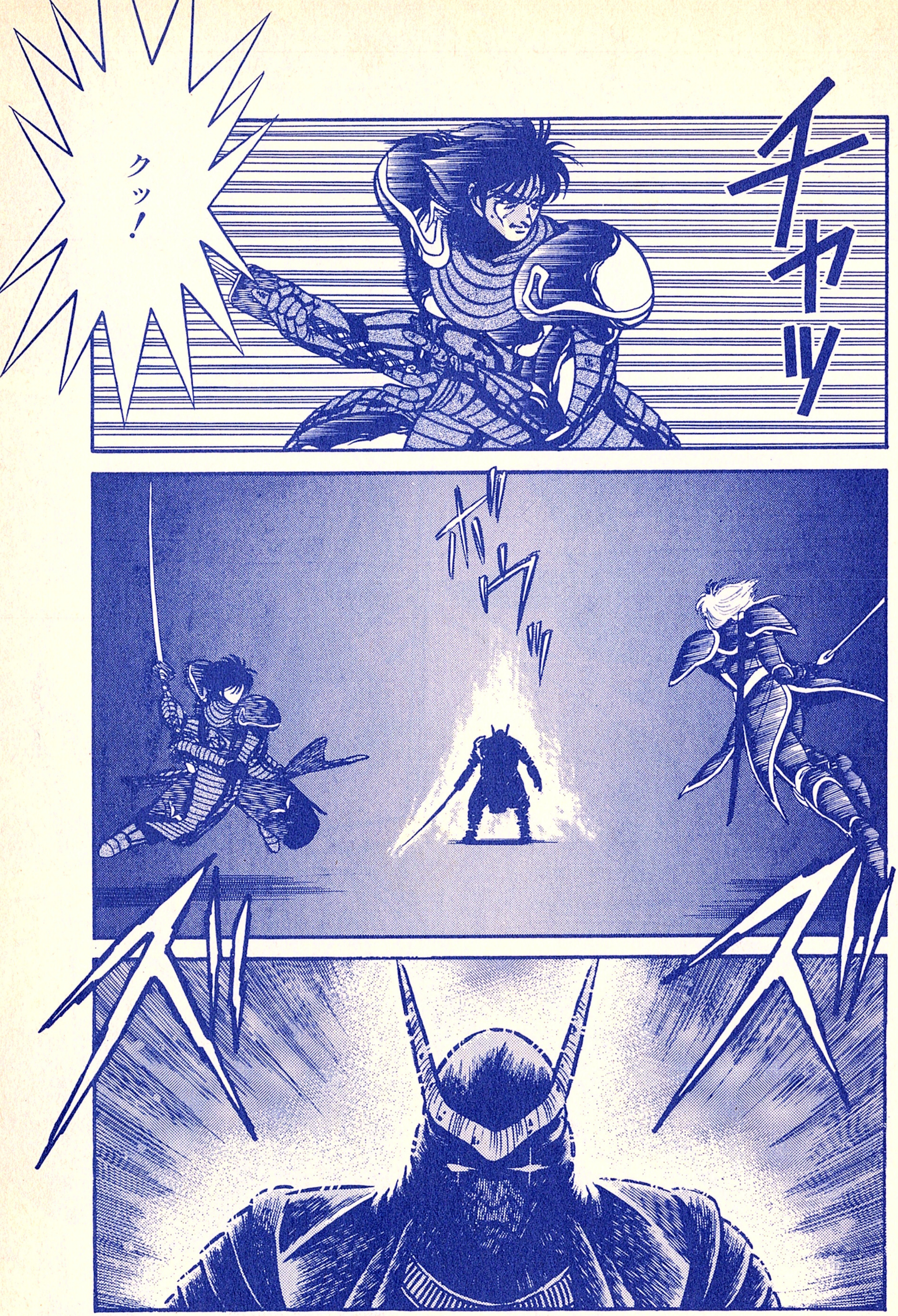

無駄──
だとしたら──
まさか
あの男にも
ふぁっ
どうした
お前が狙っているのはこの俺のはず
他の者は
グッ
すまん
テツ
リィナ
サンザ
ビクッ
確かに
関係は
ない──

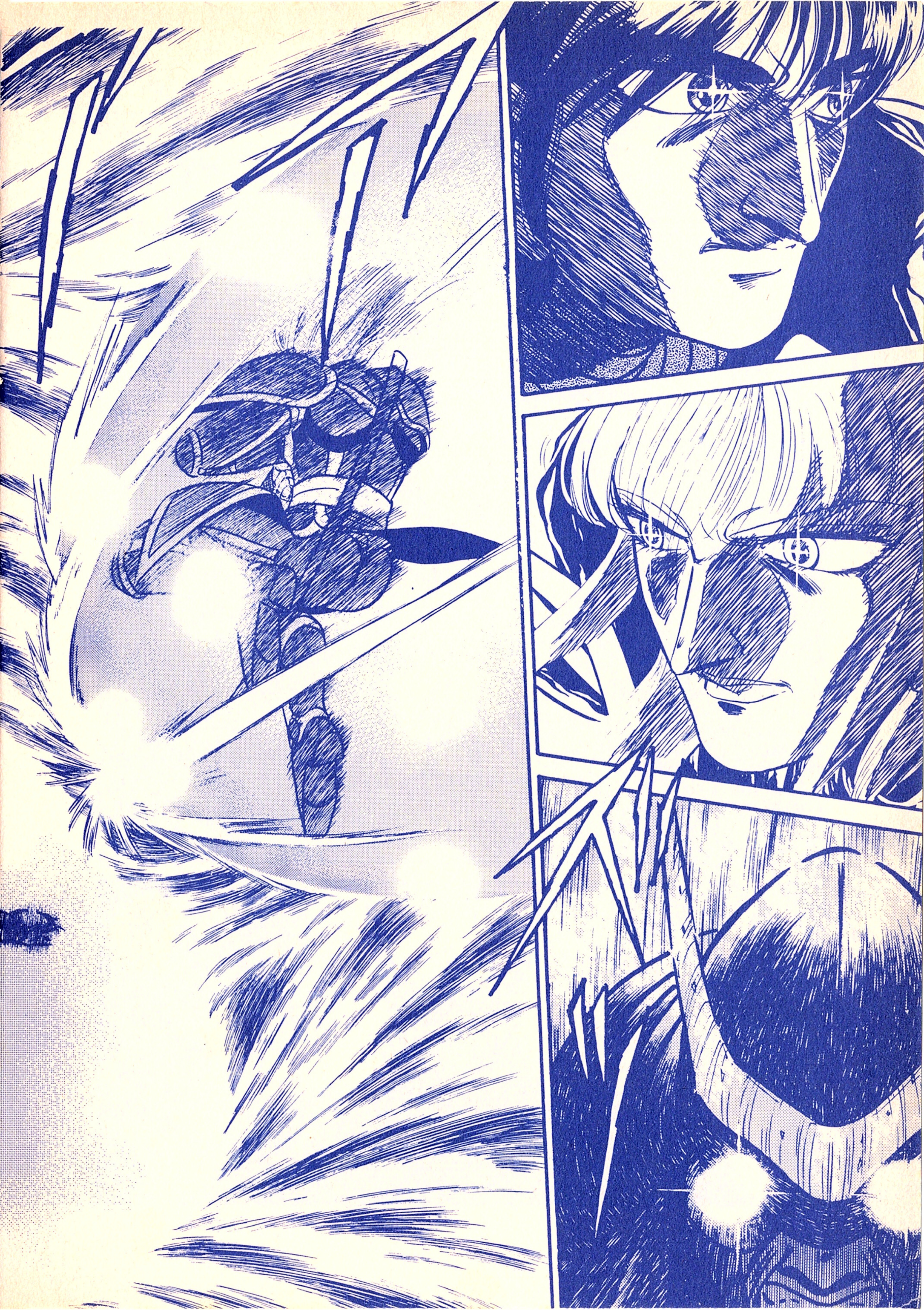

・・・ある人間にあの忍者も殺してくれと頼まれたのでな――
救いたくばこの私を斃して行くが良い――
それ程の腕を持ちながら――
依頼で人殺しなど――
少しは恩もあるからな
ある人間 誰だ
死に行く身には関わりがなかろう
何一つ知らずとも構わぬと云うのか
お前のことも何故俺を狙うのかも
そうだ せめてもの情け――とでも云っておこう
情け？何のことだ 俺はお前に会ったことすら――

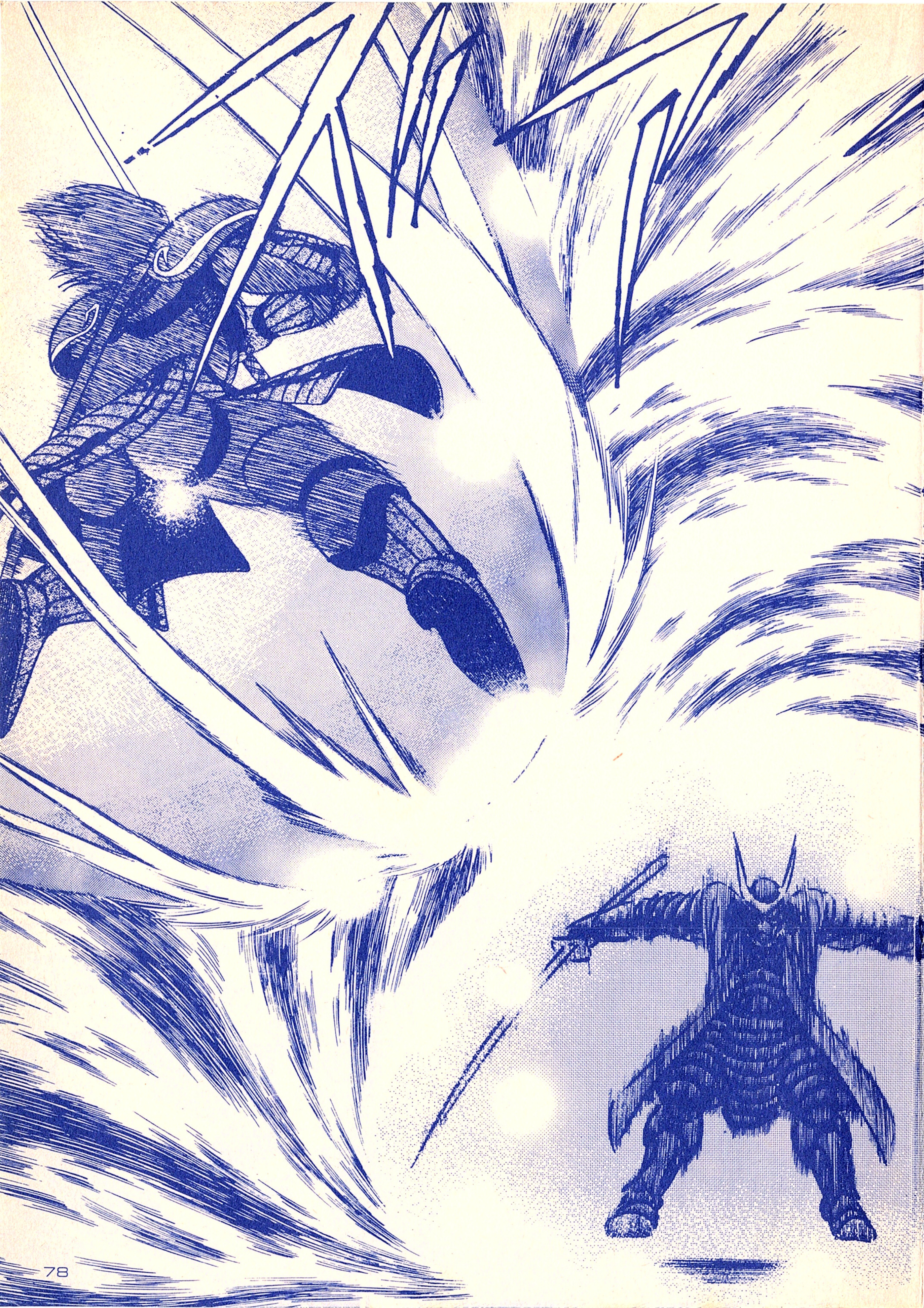


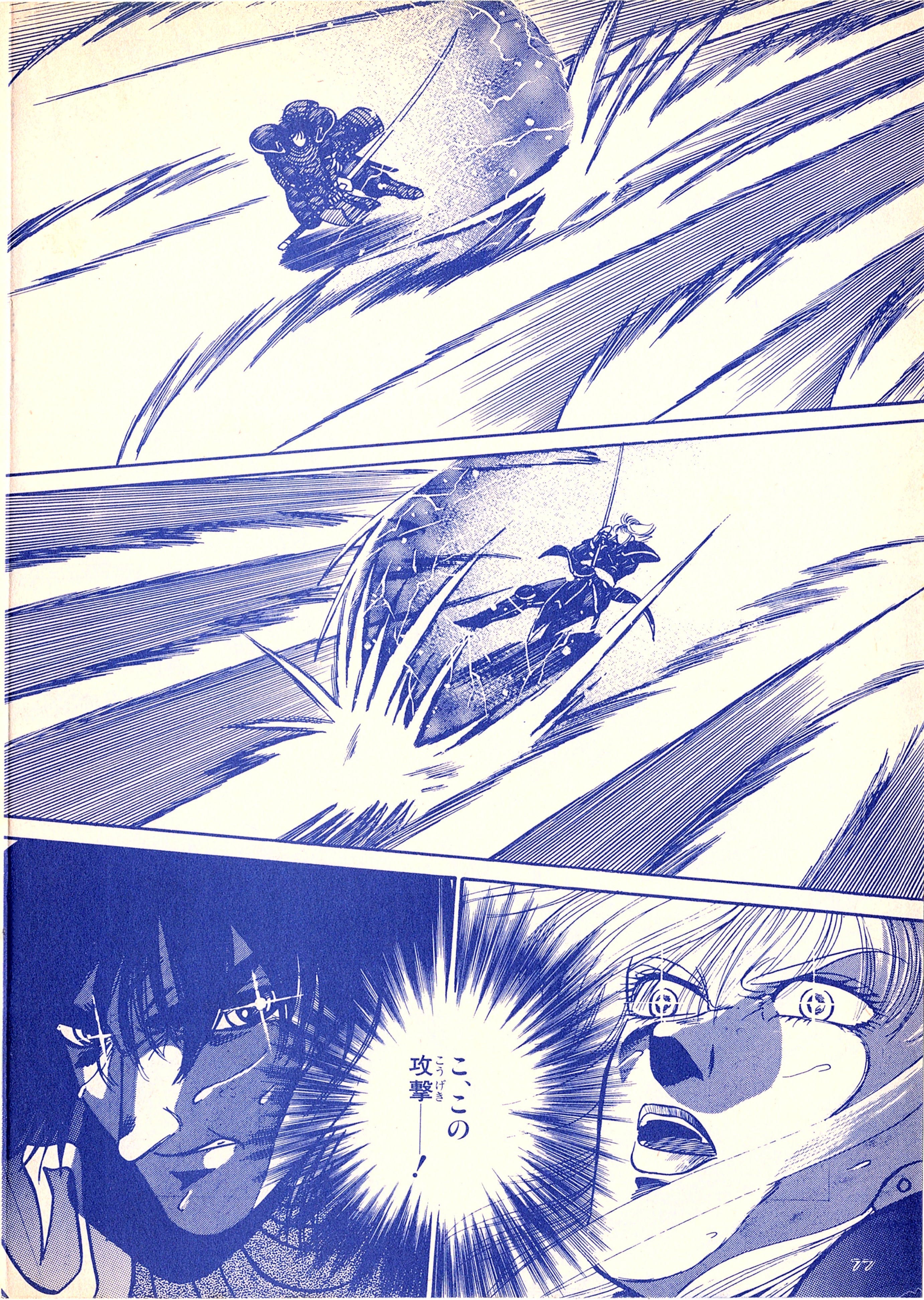
な、何だ この感触は
確かに一度も会ったこともないはず
同じ剣術の使い手だからとはいえ——
以前生きていた時代とは150年隔たりがあるのに——
この気配知っているものに似ている
不可解か
そうだろうな
しかしこの私の

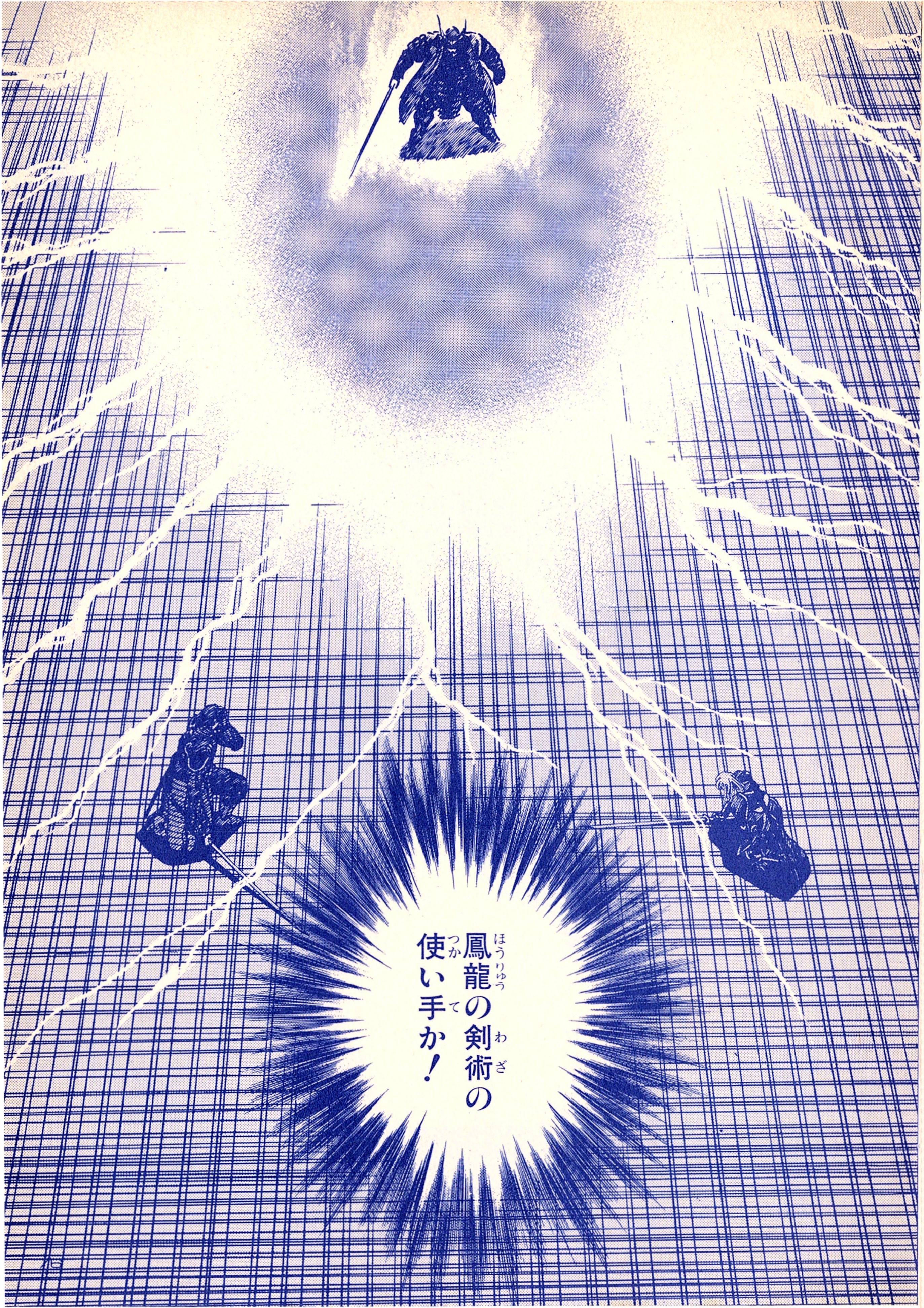

苦しみ
哀しみ
憎しみ
そして
恨みの
全てが
死ね！
ショウ！
貴様に
あると
知れ！

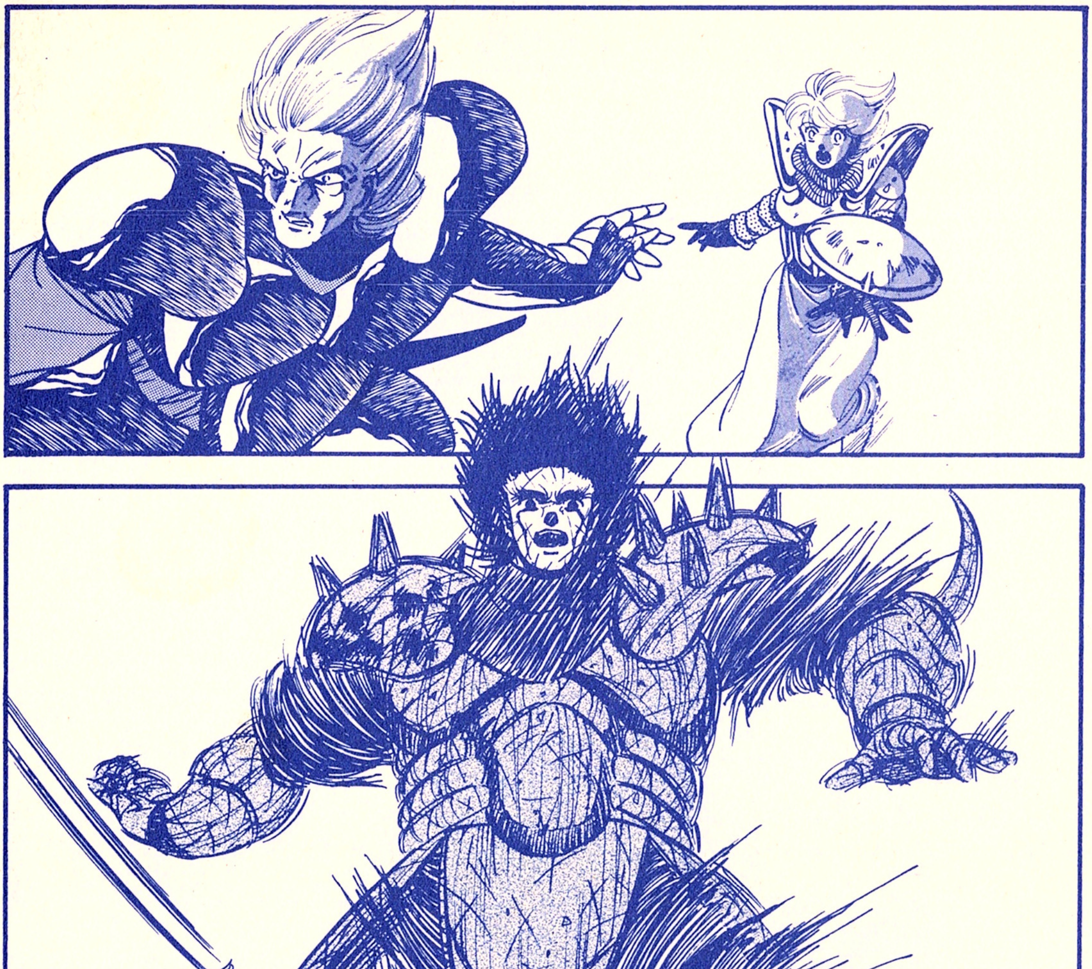

イヤッ
クッ！
ボウッ
ズ
ズ





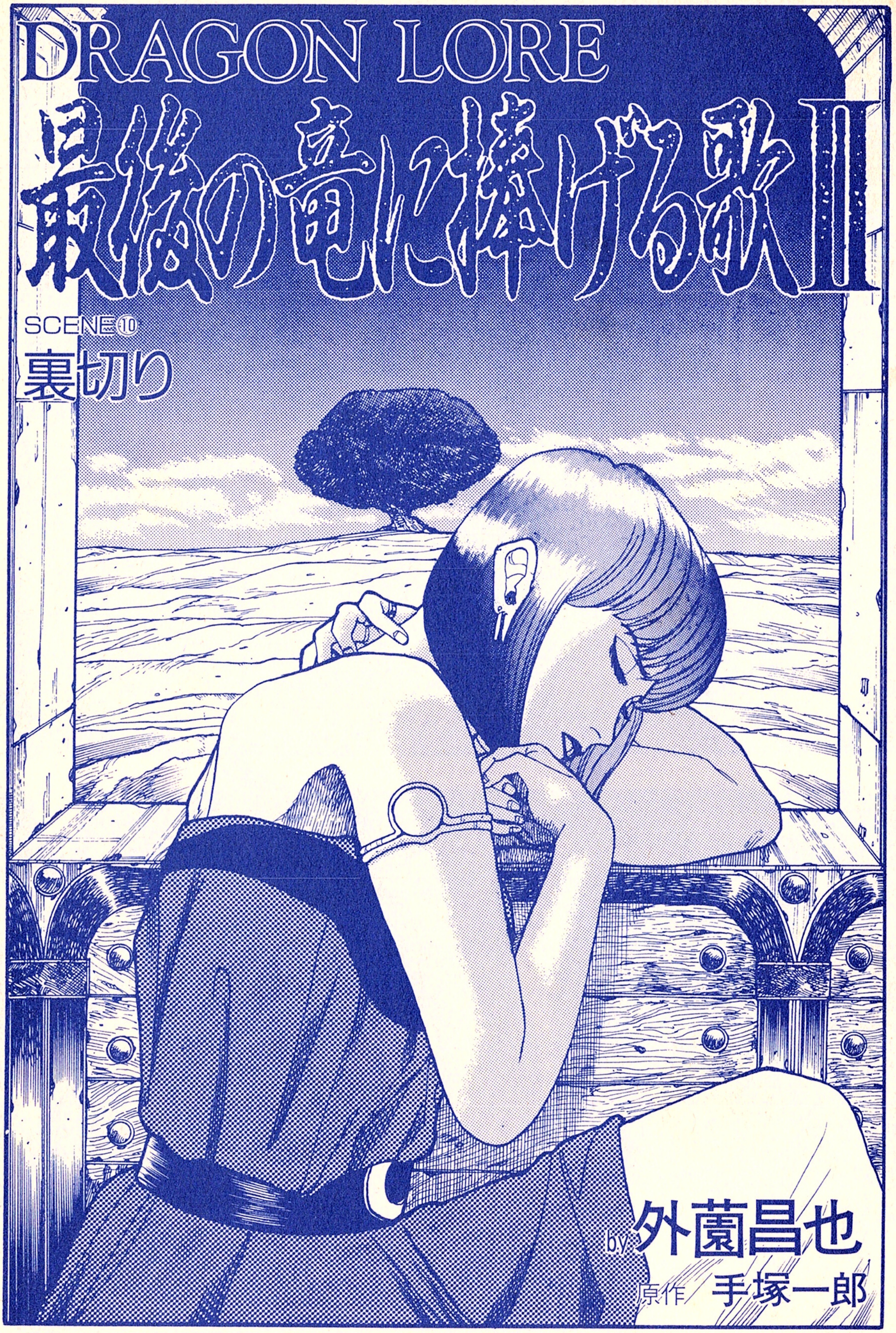

こ、この攻撃――！


鳳龍の剣術の使い手か！

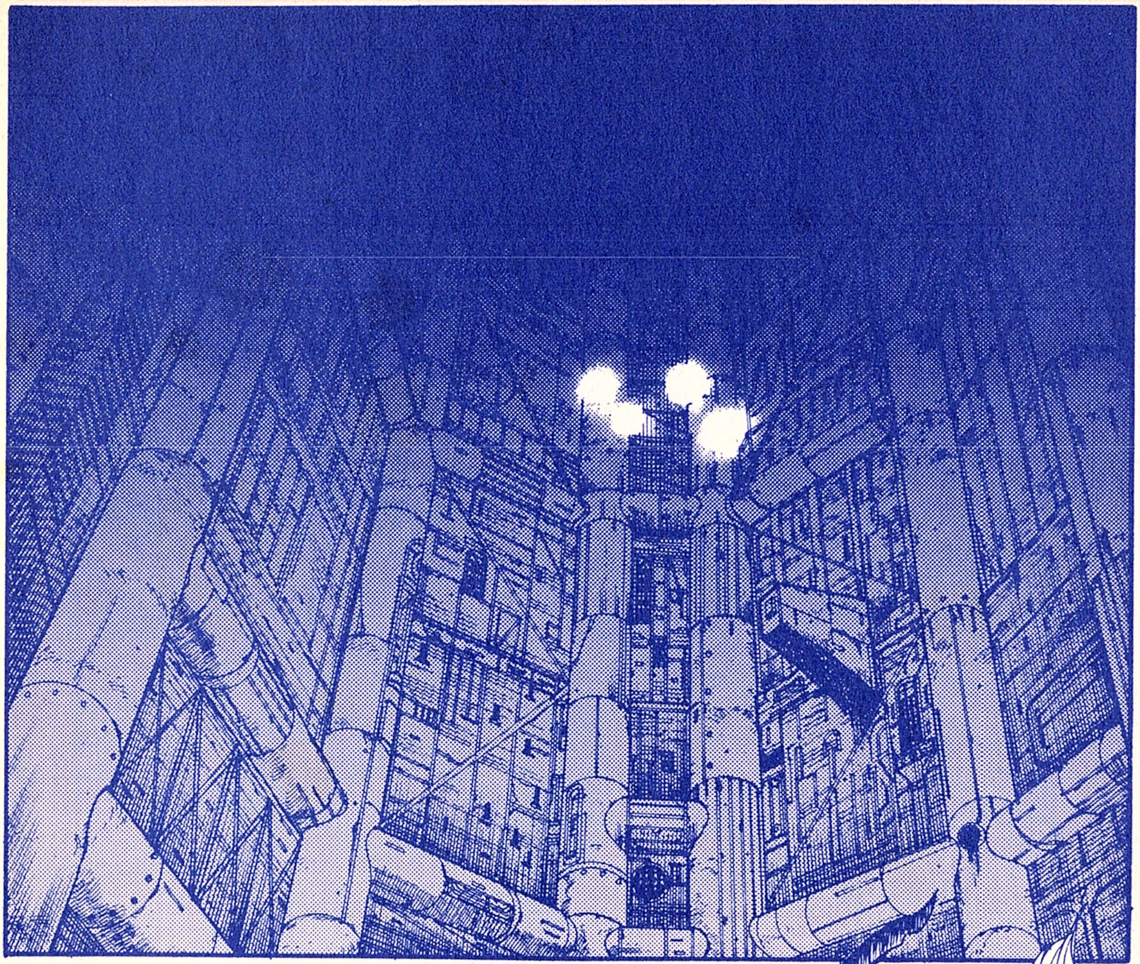


「鳳凰(ほうおう)の塔(とう)・前編」は8月上旬単行本発売です!!

次号(Vol.15 7月20日発売)につづく!!

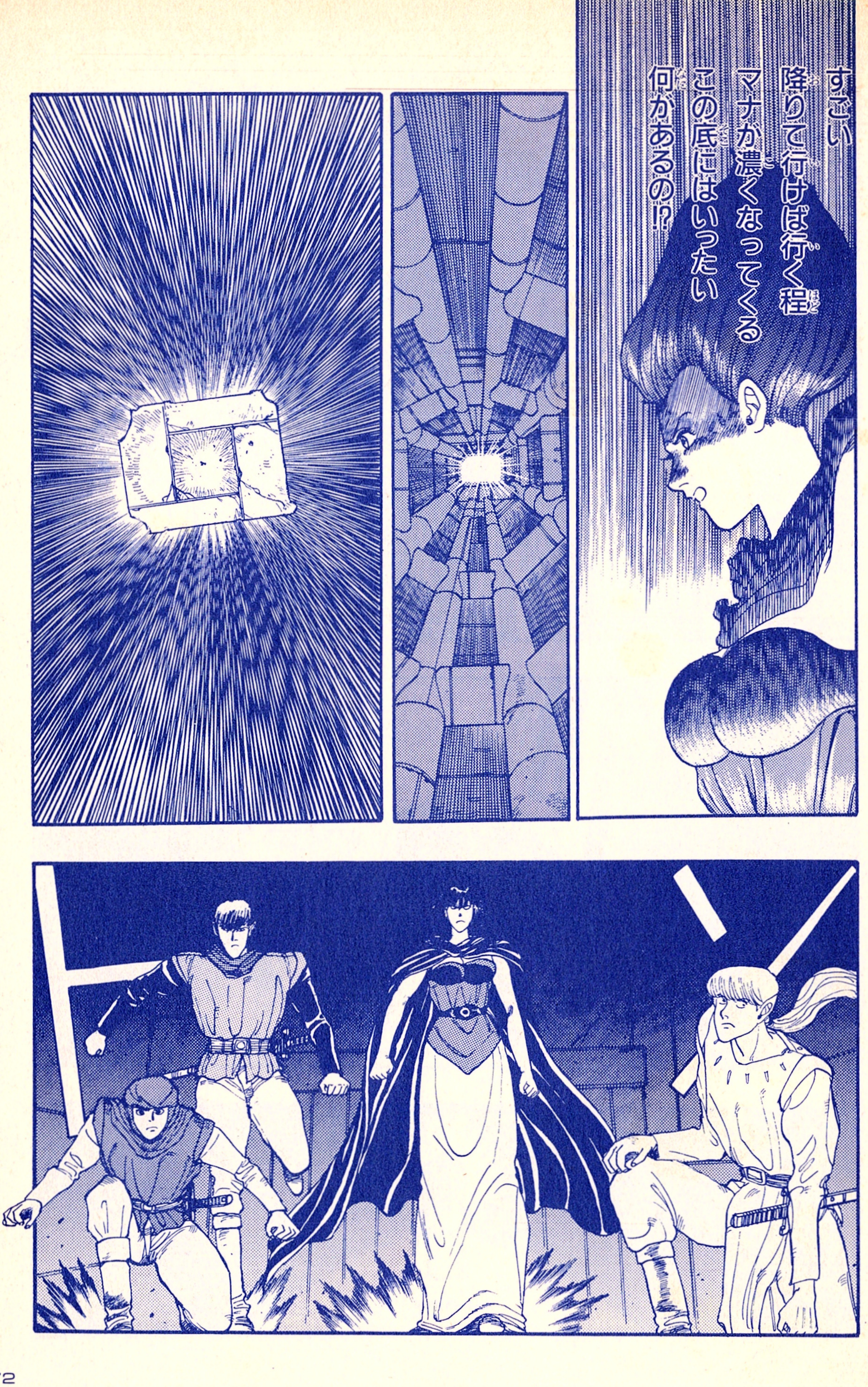


▶前回までのあらすじ／暴走する死の砂漠を止めるため、旅に出た女魔法使いグレイと妖精族シーマ。一方、錬金術師・アクィナスは妖精族の体内にあるマナを利用して、神になる秘法を完成させようとしていた。

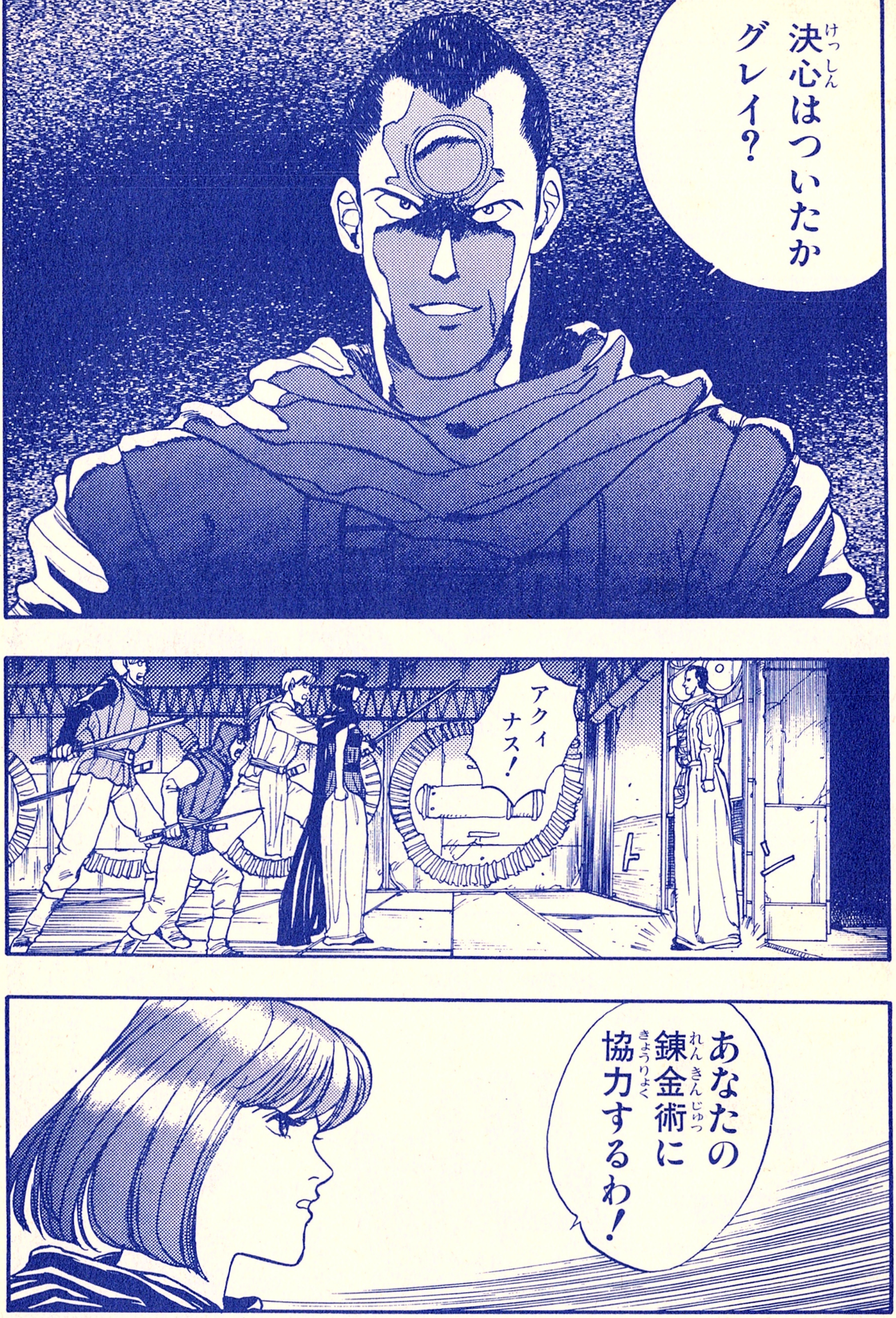


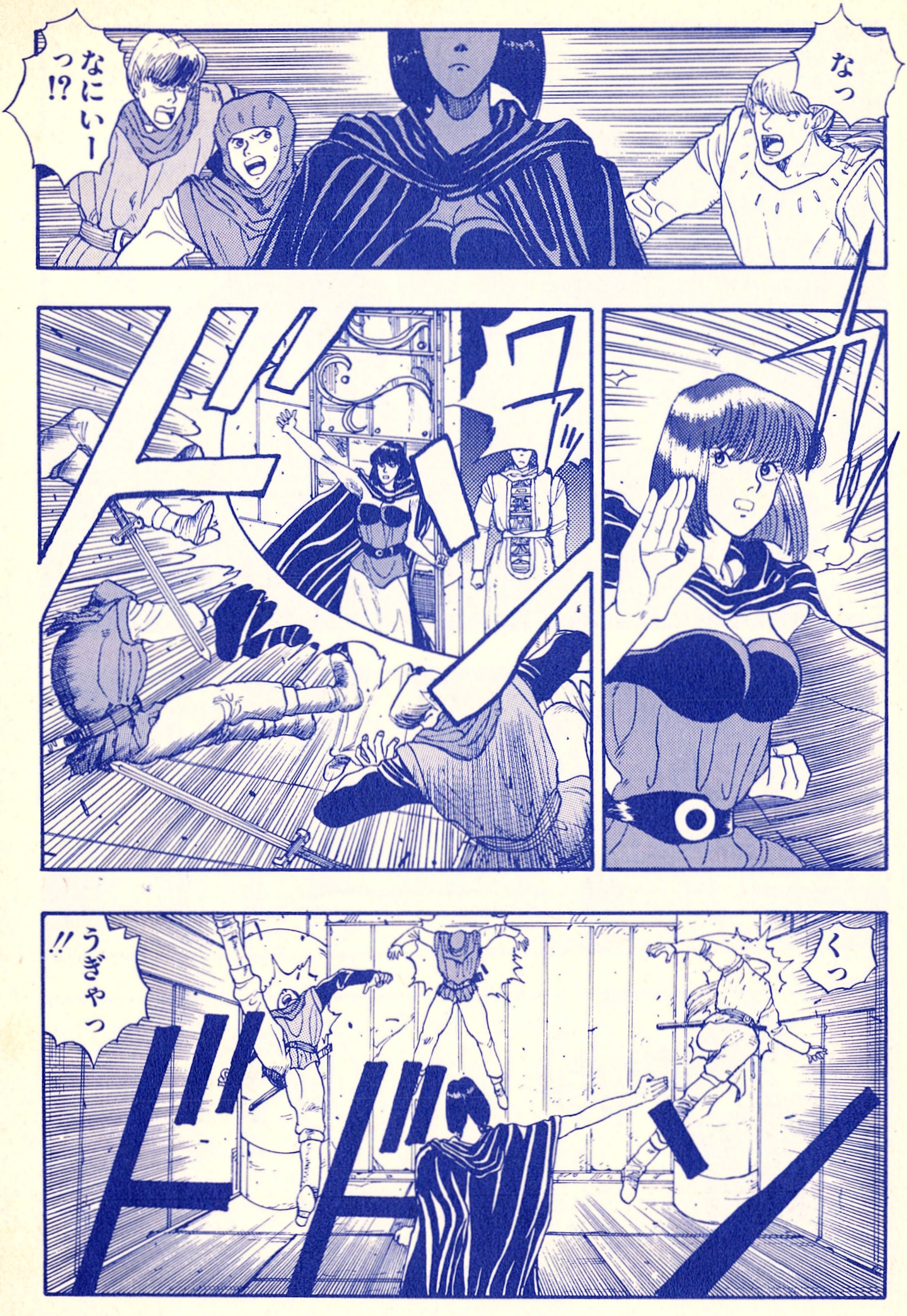
グレイたちは、真実の都の心臓部へ乗り込む!



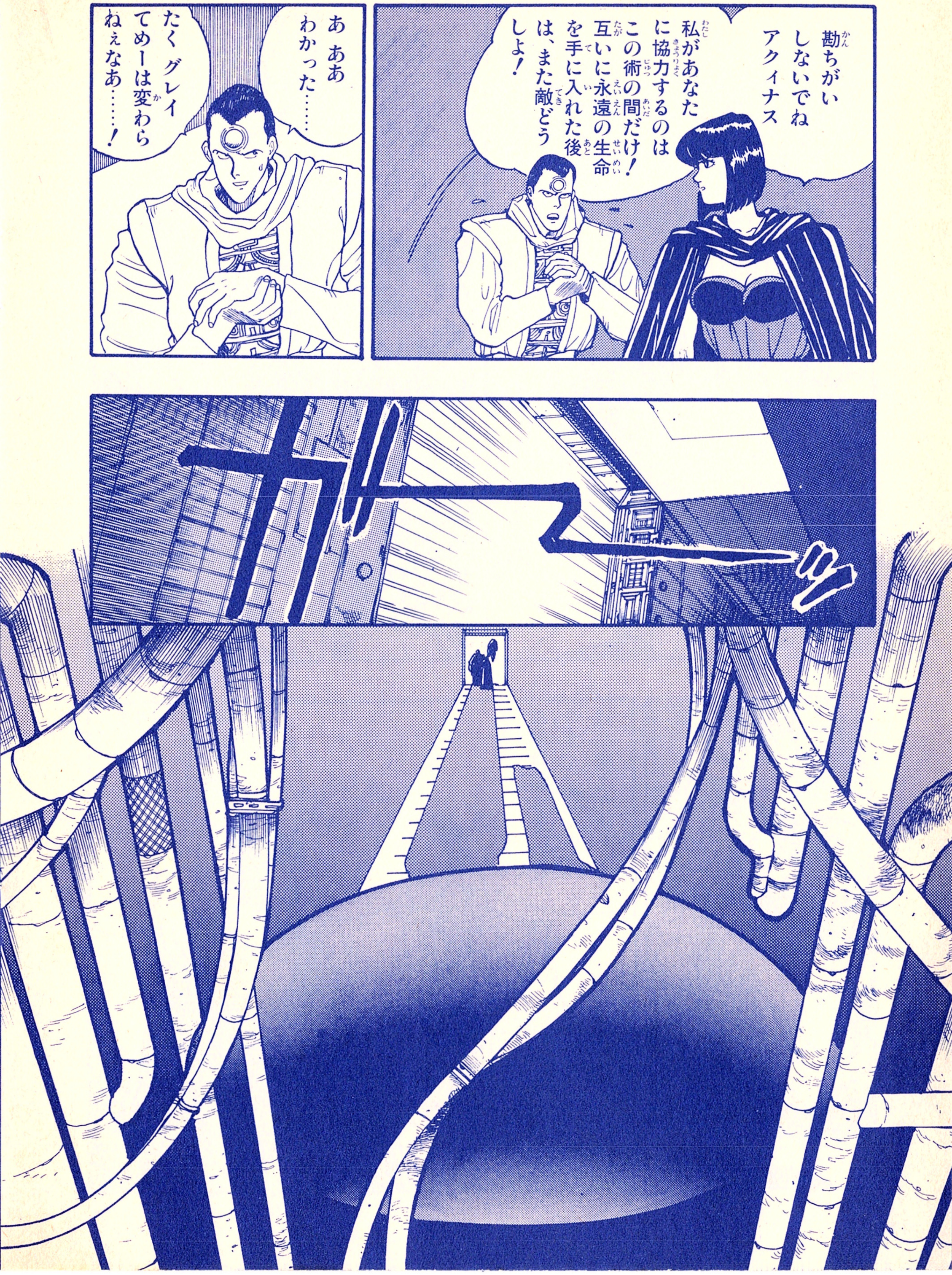

すごい
降りて行けば行く程
マナが濃くなってくる
この底にはいったい
何があるの!?




決心はついたかグレイ?
アクィナス!
あなたの錬金術に協力するわ!

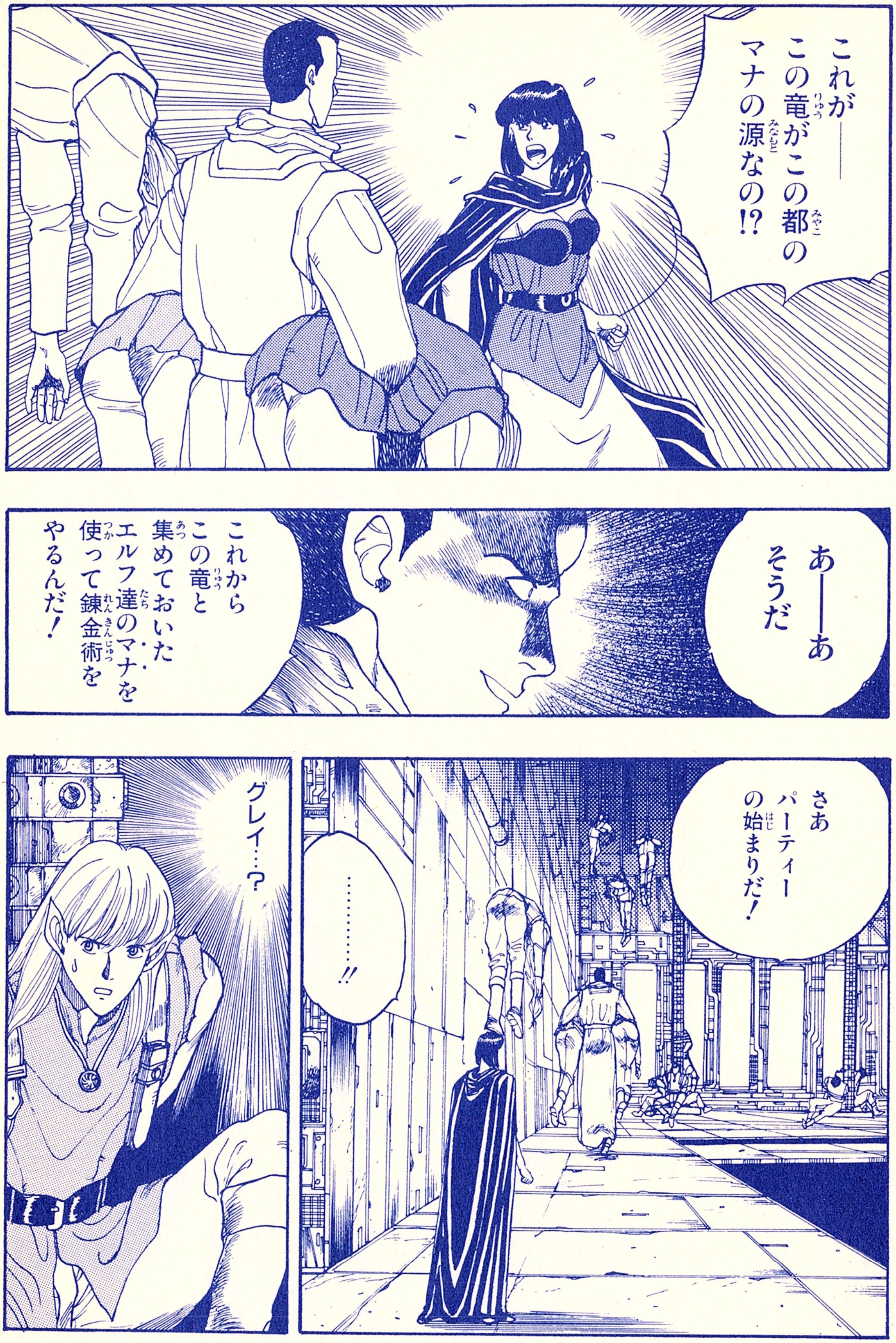

なっ
なにいーっ!?
ワァッ
ドッ
カッ
くっ
うぎゃっ!!
ドドドン

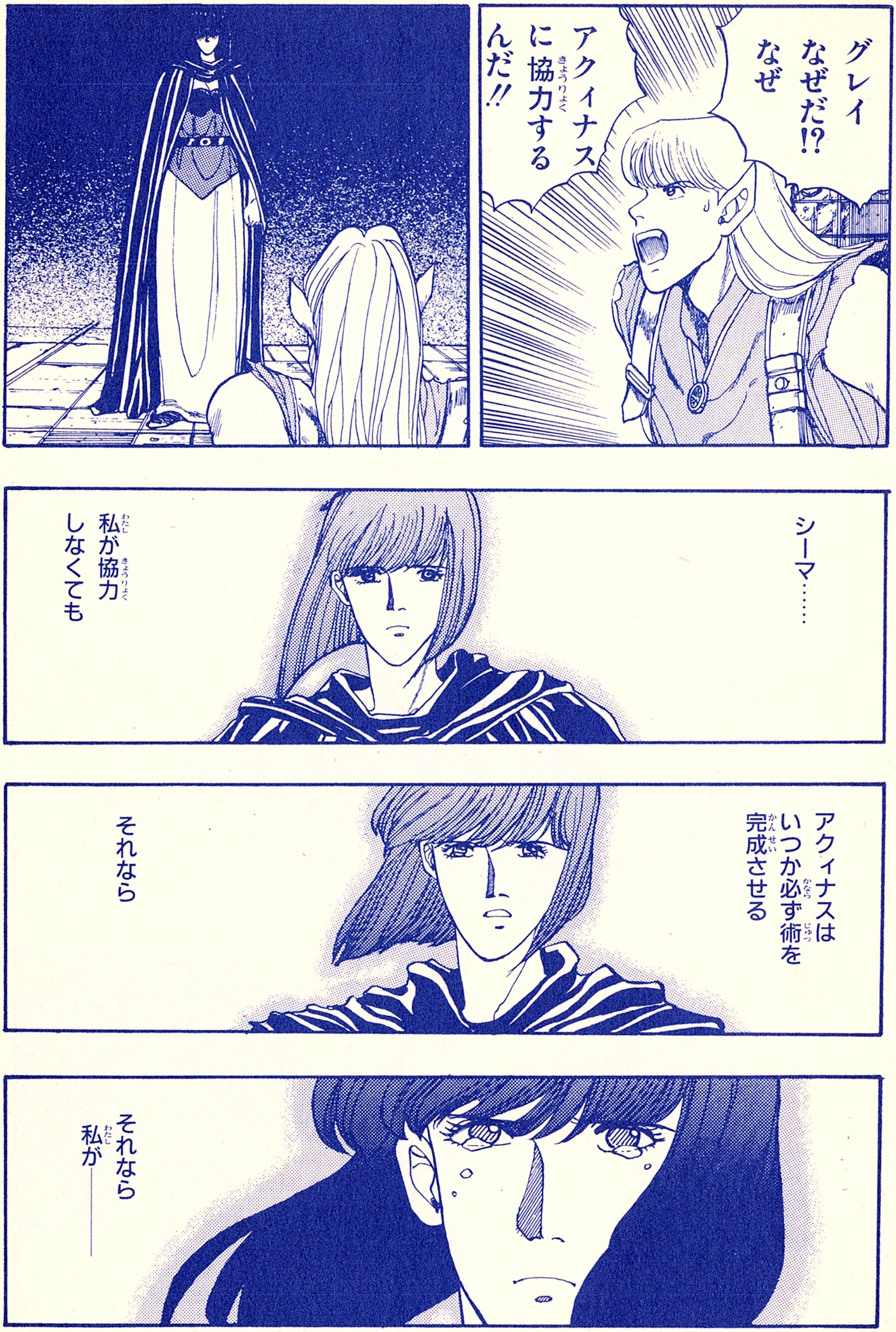

裏切ったな グレイ!!
ズズ
裏切った? 私が いつあなたに 協力すると言った かしら…
くっ
う…!
グラ
ド
よくぞ 決意した グレイ! それでこそ 魔術師だ!
さあ、 準備は整っている 今すぐ 術を はじめよう!

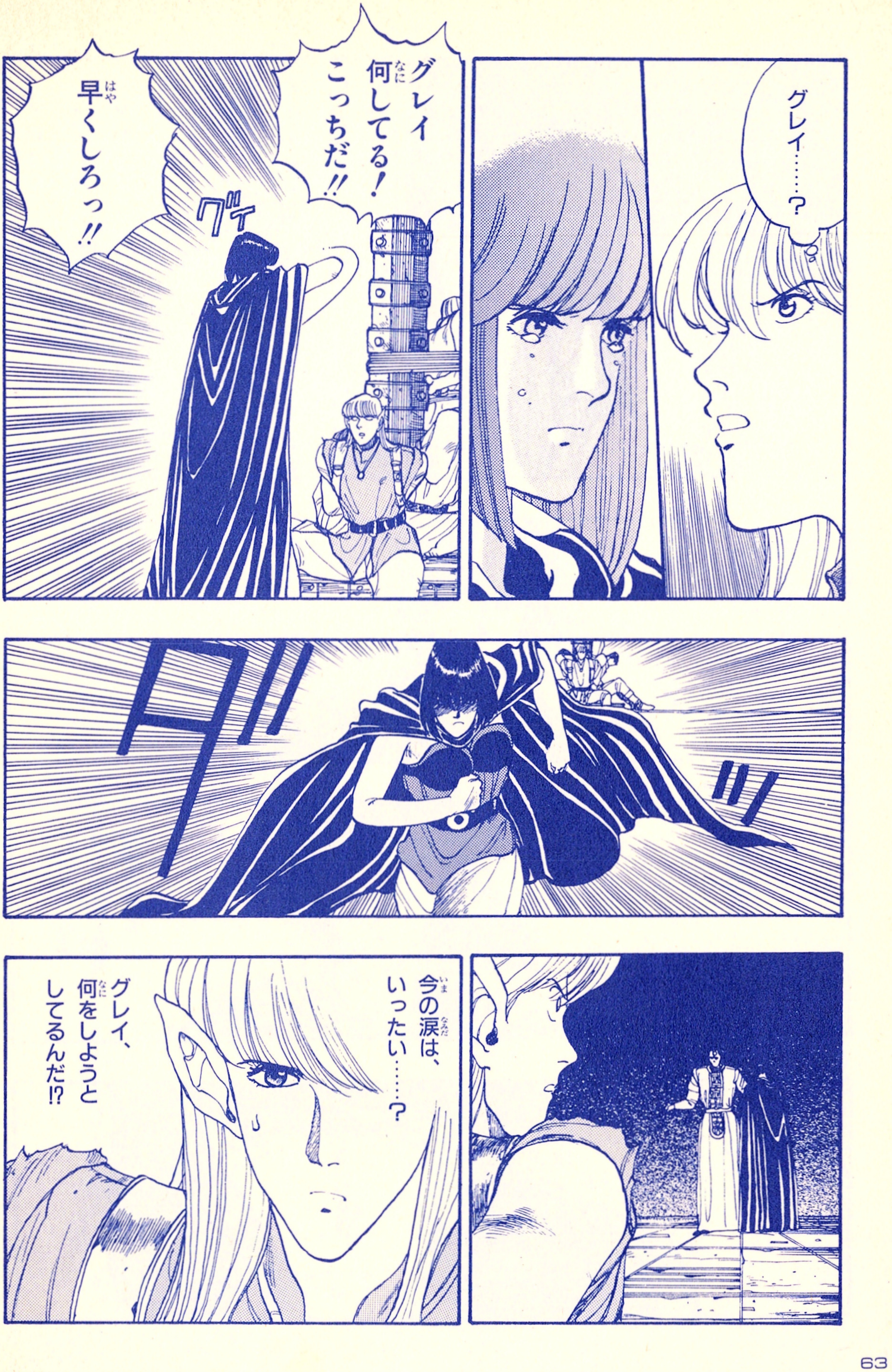


勘ちがいしないでね アクィナス
私があなたに協力するのはこの術の間だけ！互いに永遠の生命を手に入れた後は、また敵どうしよ！
ああ わかった……
たく グレイ てめーは変わらねぇなあ……！
ガーッ

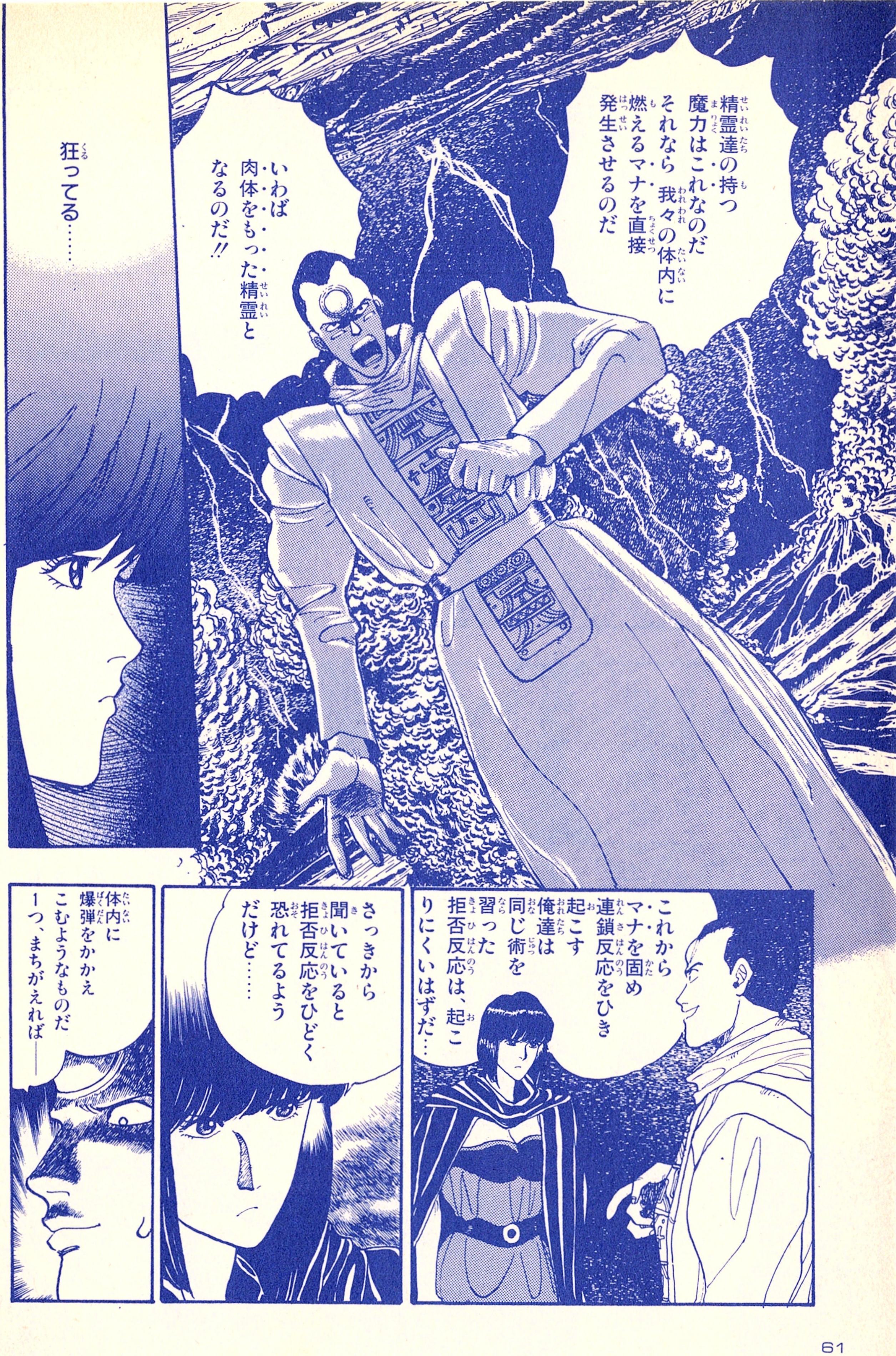

ドラゴン――!!!


これが――
この竜がこの都のマナの源なの!?
あ――あ そうだ
これから この竜と 集めておいた エルフ達のマナを 使って錬金術を やるんだ!
さあ パーティーの始まりだ!
………!!
グレイ…?


グレイ
なぜだ!?
なぜ
アクィナスに協力するんだ!!
シーマ……
私が協力しなくても
アクィナスはいつか必ず術を完成させる
それなら
それなら私が――


グレイ……？
グレイ何してる！こっちだ!!
早くしろっ!!
グイ
ダッ
今の涙は、いったい……？
グレイ、何をしようとしてるんだ!?


エルフや竜の体内にあるマナは幾世代にもわたってひきつがれ 変化した特殊なものだ
それはわずか1匹の竜で大都市を動かす程のパワーを持ち 生物の体内に入れても拒否反応を起こさない!
それがあなたのいう錬金術?
エルフや竜のようにマナを体内にたくわえて 肉体を強化するの?
いやちがう!!
連鎖反応をひき起こすのだ!!
錬金術ではあらゆる物質は〝アートム〟と呼ばれる最も小さな物質がからみ合って構成されている事を 教えている
この〝アートム〟のからみ合いを1つ壊せば次々と、壊れるこれが連鎖反応だ!
この時生じるエネルギーが太陽を燃えたたせているのだ


精霊達の持つ
魔力はこれなのだ
それなら 我々の体内に
燃えるマナを直接
発生させるのだ
いわば
肉体をもった精霊と
なるのだ!!
狂ってる……
これから
マナを固め
連鎖反応をひき
起こす
俺達は
同じ術を
習った
拒否反応は、起こ
りにくいはずだ…
さっきから
聞いていると
拒否反応をひどく
恐れてるよう
だけど……
体内に
爆弾をかかえ
こむようなものだ
1つ、まちがえれば——


瞬時にして蒸発する!!
恐ろしくないのかグレイ――?
もとより危険は承知
どうせいつかは死ぬ身だ 好きな男のため 死ぬのなら本望というもの
む、いい答えだ……
では始めるぞっ!!



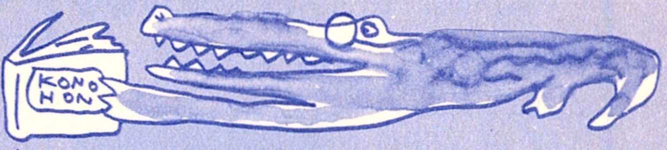
次号(Vol.15 7月20日発売)につづく!

過熱する2人のパワー。グレイは何をする気だ!

TVゲーム世代のためのスーパーブックガイド

by柴尾豊太郎

この本を読め!!



第十回『怒りのパソコン日記』

矢野徹著　河出書房新社

人生をRPGにしてしまおう

きみとＲＰＧとの付き合いはどんなものだろうか。ＲＰＧはたんなる暇つぶし？　それとも、ちょっとした遊びなのだろうか。人それぞれにＲＰＧとの付き合い方はいろいろあると思う。

ＲＰＧによって人生に刺激を受け、ＲＰＧを自分自身の力として大きく取り込んだ人もいる。

矢野徹という人を紹介したい。ＳＦや冒険小説の熱心な読者ならもうご存知だろう。「カムイの剣」、「打紙宇宙船の伝説」の作家であり、〈デューン〉シリーズや、Ｒ・Ａ・ハインラインの翻訳者である。

そして、「ウィザードリィ日記」（ビジネス・アスキー）の作者である。「ウィザードリィ日記」はとんでもない本だった。なにしろ人生をＰＲＧにしてしまった人間の成長の記録なのだ。

矢野氏は63歳（！）のとき、「ＳＦ／ファンタジイ・ゲームの世界」（安田均著）で紹介されていたコンピュータゲームの世界を知り「それほど面白いものなら、生きているうちにやっておかなければ、間に合わない」と、即座にＰＣ88ＭＲを買いこんでしまった。その日から「ウィザードリィ」に病みつき。「ウィザードリィ日記」ではゲームのためのパソコンとの出会いから、98を手にし、ＭＳ—ＤＯＳを学び、パソコンを自身の創作や翻訳のツールとして自在に使いこなすまでの日々が書き綴られている。

まるで、徐々に経験値を稼いでいくかのように、コンピュータを自分のものにしていくさまは小気味よく、人生をＰＲＧのように楽しんでいるというほかない。

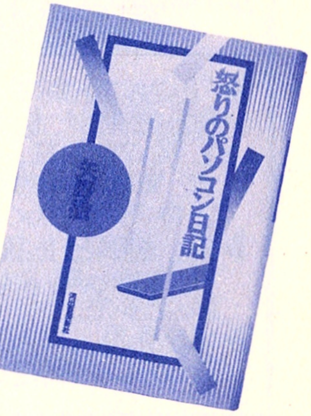
その続篇ともいうべき、氏の「怒りのパソコン日記」がでた。

「ウィザードリィ日記」を人生ＲＰＧとするなら、「怒りのパソコン日記」は、その攻略本だ。これだけ、コンピュータが普及し、身近なものとなった現代において、どうすればより人生を充実させることができるか。矢野氏が、自身の体験をもとにそのノウハウを教えてくれる。

もちろん、具体的にああしろこうしろなんて押しつけがましくいっているわけではない。矢野氏自身が楽しんだことを本当に楽しそうに語っているのがなにより素敵で、だからこそよくできた人生の攻略本といえるんだ。

また、タイトルどおり、政治家、土地、コンピュータのハードやソフト、そのほかもろもろのことに矢野氏は怒っている。ただ、その怒りは決して絶望からでた怒りではない。「なんでこうならないのだろう。こうやればもっとすばらしいのに」という希望をともなった怒りなんだ。

27歳のぼくは不思議なほど、60をこえた矢野氏のことばにジェネレーションギャップを感じることはなかった。それどころか、氏のことばのひとつひとつが胸に響き、現代に対するなにか新しいビジョンを得られた喜びに感動するばかりだ。

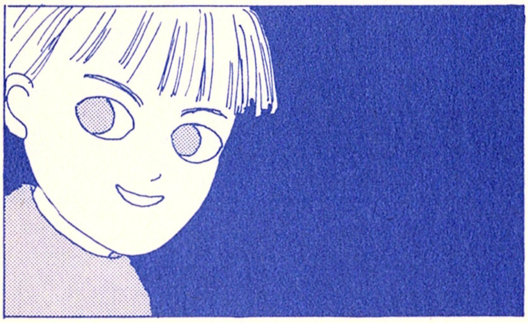


➡「怒りのパソコン日記」矢野徹著　河出書房新社（2000円）コンピュータの存在があたりまえになった現代。あたりまえのものをあたりまえに使いこなし、そのうえ、それを楽しんでしまった矢野徹氏の小気味よい主張が存分に楽しめる好著。気楽に読んで、得るもの多し

▶人形嫌いの人へ

『チャイルド プレイ』おすすめ度 💀💀💀

▶呪いをうけた人形が動きはじめ人間におそいかかる!!

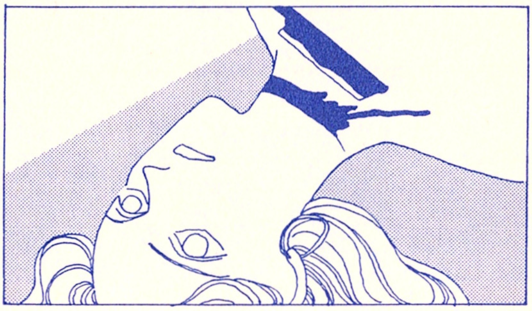


▶カンケーないですけど 私の部屋には市松人形が置いてあります。
気がつくと髪がのびて…………………



▶刃物にうるさい人へ

『シャドー』 おすすめ度 💀💀💀



▶ローマの街で次々と起こる連続殺人事件。犯人は死体の写真を撮るのが趣味というあぶない奴であった。

▶やっぱりイタリアン・ホラーはアルジェントである。

▶やっぱりシャワールームでは殺人なんである。

▶ジュリアーノ・ジェンマといえど安心できないんである。 あー びっくりした。

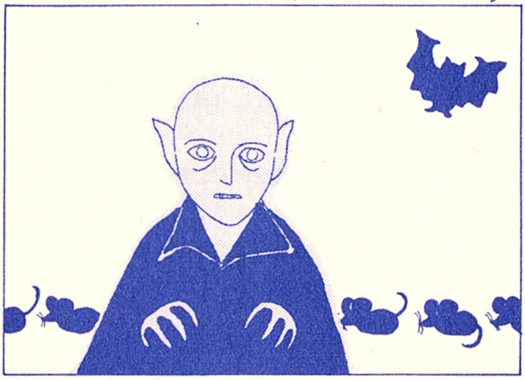
▶ハデな色使いの「サスペリアⅠ・Ⅱ」と違って血の「赤」と影の「黒」が印象的。
（でも やっぱハデか…… ）

▶カンケーないですけど 良く切れる包丁だとタマネギも目にしみないそうです。

▶ねずみが嫌いな人へ

『ノスフェラトゥ』おすすめ度 💀💀💀💀

▶吸血鬼のお話。（ペスト 黒死病がらみでねずみが大量に出てくるんだな これが……）



▶「とってもこわかった!」と友人がおしえてくれた作品だったが、見た私は「変なおじさん」と笑ってしまったふとどき者である。
が、実はとってもかわいそうなおじさんの話であった……しくしく…。

▶青を基調とした画面がとってもキレイでTV放映の時 おもわずビデオに撮ってしまったのであった。

▶吸血鬼役のクラウス・キンスキーはナスターシャ・キンスキーのお父さんである。やっぱ似てる。

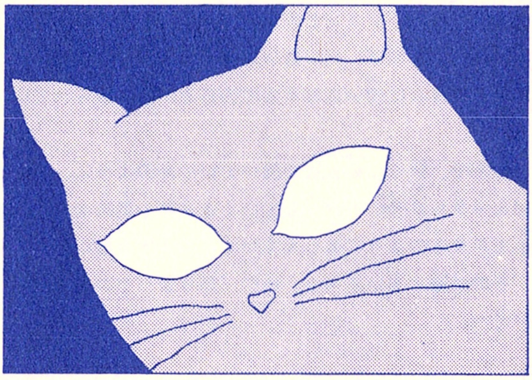
▶犬や猫を飼ってる人へ

『ペット セメタリー』おすすめ度 💀💀💀💀

▶動物達のための墓地。その奥にひそむ行ってはならない場所とは……?

▶原作は「シャイニング」や「キャリー」のスティーブン・キング。

▶子供ゾンビがこわかった。
「オーメン」といい ホラーに子供が絡むとどーも こわい。
何かと世話をやいてくれたゾンビが乗ってたトラックに「666」のナンバーがついてたのって やっぱ意味があったんでしょーか?



松本千秋▶10月25日生まれ。マンガ家。趣味はテニス。好きな監督はタルコフスキー。「ホラーハウス」などで活躍中。

もうすぐ 夏休みおすすめビデオガイド

by 松本千秋

●これで夏休みのビデオ計画はカンペキさっ!

▷長時間TVの前に座っていても平気な人へ

『13日の金曜日 PART 1〜8』



▶女子供は見逃がしてあげようとか お年寄や体の不自由な方を大切に とか ジェイソンくんの前には 人道も倫理も(同じ事か…)何は無いのであった。すべて平等に殺されるのであった……。(その数実に113人!!)
パート1のラスト近く 湖でのシーンは何度見てもびっくりする私であった。
パート8では おなじみのクリスタルレイクを離れN.Y.に登場するのであった。
地下鉄にも乗っちゃうのであった。
夏休みに「シリーズ8本一気見」するのもいいかもしれない。

おすすめ度 💀💀💀💀



『エルム街の悪夢 PART 1〜4』

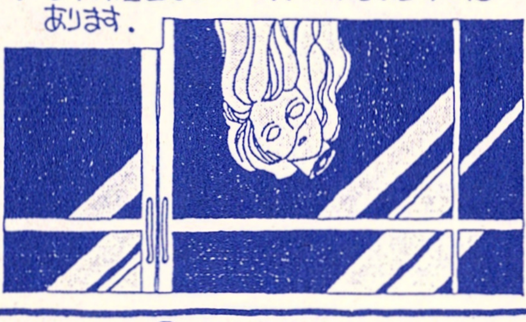
▶1作目はホントにこわかったが、シリーズが重なるにつれ、RPGを見ている気分になってしまった私は今だに「ドラクエⅢ」で気球に乗れないでいる…………。
パーティーを組み 立ちむかうのであるが、回を追う毎にレベルアップするフレディーくんには 数々のアイテムも十字架も聖水も効かないのであった ……しくしく…。
悪夢のおわる日は来ないのか……!?
▶4作目に登場する犬の名前が「ジェイソン」だったりして何となく笑える。(この犬って「ヒドゥン」に出てたのとは違うのかな?)
▶「13金」の無口なジェイソンくんと違って おしゃべりなフレディーくんは かつてMTVのDJまでやってしまった おちゃらけ野郎である。

おすすめ度 💀💀💀💀

▷ひとり暮らしの人へ

『テナント』 おすすめ度 💀💀💀💀

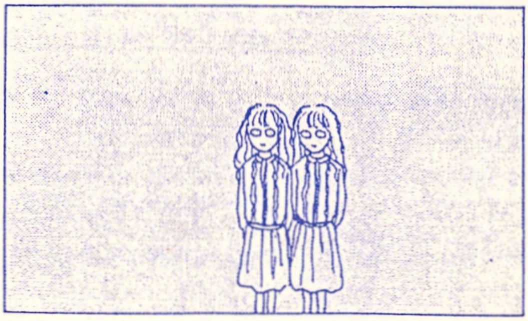
▶パリのとある古いアパート。前の住人は自殺。という部屋を借りた男にふりかかる奇妙な出来事。やがて男も……。
▶アパート、マンションでひとり暮らしをしている人には充分楽しめると思う。
その部屋はだいじょうぶですか….?
他の部屋に住んでいる人は….?
▶ビデオ屋さんでは「サスペンス」のコーナーにあります。



▷暑さにうだってる人へ

『シャイニング』 おすすめ度 💀💀💀💀

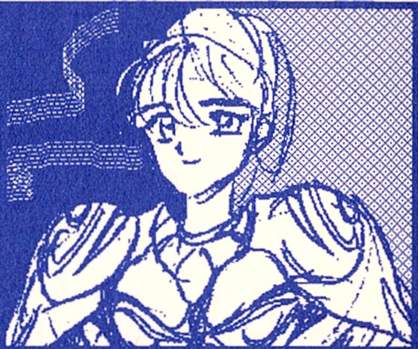
▶冬の間 閉ざされるホテルの管理をまかされた家族におそいかかる恐怖。
▶キューブリックはやっぱりわからないとの感想もあるが「雪山」「吹雪」と画面を見れば暑さも忘れる。
▶J・ニコルスンもこわいが他の家族も充分こわい。
▶キーワードは「RED RUM」。

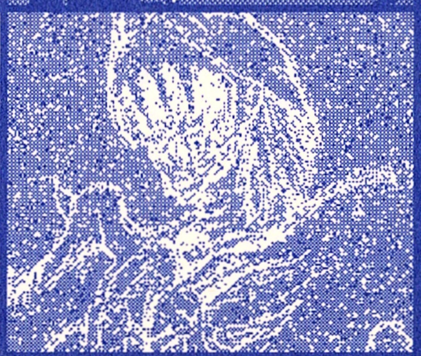


▶ 💀 おすすめ度

RPGの真髄を描く、コミック。







鳳凰の塔

作・石垣環
8月上旬発売
予価900円

「ウィザードリィ外伝・第2部・前編」本誌連載の超人気RPGコミック、待望の単行本化。ショウ一行のすさまじき活躍に、心を震わせる日は近い。発売を待てっ！

リンクの冒険

作・未将崎雄
近刊予定
予価900円

「ゼルダの伝説」に続き、巨匠未将崎雄が描く究極のファンタジーコミック！ここに、新たなるリンクの冒険が、その幕を開く。その真の勇者への道のりに、乞う、御期待！




お待たせしました
本日発売

メガドライブのすべてII

「ファンタシースターIII〜時の継承者」「ソーサリアン」他、メガドライブ最新RPG注目作の徹底解析。もちろん「サンダーフォースIII」等シュティングゲームのデータも完璧。未発売ゲームの先端情報もどっさりで、まさにメガドラのバイブルだ！

ファミコン必勝本編集部
セガ・メガドライブクラブ編
定価1200円



Wizardry・II

小説ウィザードリィII

風よ。龍に届いているか

第18回

繁栄に驕り
自ら生みだした不死の魔物に
一夜にして滅ぼされた古代王国。
その秘術を操るアドリアンは
遥かな過去からの使者なのか——。



作／ベニー松山
イラスト／高橋政輝

〔第十九章〕秘術

それは、この世のものとは思えぬ幻想的な光景だった。

周囲には、静かに夜霧が垂れ篭めている。

そこだけが、きれいに霧が吹き払われていた。

長身の男の姿が、冷たい月の光を浴びて浮かび上がっている。

寒気がするほどに、美しい男だった。闇がその白い肌を際立たせ、月光が金の髪を燃えるように輝かせている。

夜の化身――そう呼ぶに相応しい、夜闇によって引き立つ美貌だ。それは陽光の下では決して見ることのできぬ、妖しい艶やかさだった。

そして――。

男の躰は宙にあった。

足の下には、空気以外何も存在してはいない。

半ばで折れた円柱の上から、男は数歩足を踏み出しているのだ。

一瞬の出来事ではない。

もうすでに十秒余りも、男の躰は五メートルほどの高さの空中で静止している。

俺とディーは声もなく、惚けたようにその姿を見上げていた。

「……浮遊の呪文」

ようやく、ディーが声を絞り出した。「この数百年、復活に成功した者はいないっていうのに……」

頭上で、男が薄く笑みを浮かべた。

――ファールヴァルトのアドリアン。男は、そう名乗った。

〝森の彼方の国〟の話は、俺も幼い頃の寝物語に聞かされた記憶があった。

大陸の遥か北方に広がる大森林地帯の深部に、神世の時代から栄え続けた国があったという。

そこには世界中から高い知識と魔法技術を持つ賢人たちが集まり、生活に必要なあらゆるものは魔法の力で賄うことができた。

前号までのあらすじ

精霊神グニルダの恩寵により、あらゆる外敵から守られ続けてきたリルガミン市。しかしその聖都も原因不明の天変地異に見舞われ、滅亡の一途を辿っていた。異変の原因究明のため王国は多数の冒険者を募り、街の北に聳える禁断の山〝スケイル〟に隠された神秘の宝珠の探索を命じた。

探索を続けて約一年。冒険者たちは自らの能力を磨き、山中の迷宮は宝珠の守護龍ル'ケブレスの護る最上層を残して全て踏破された。使命の達成は目前であった。そしてついに、主人公ジヴラシアのグループであるガッシュ、マイノスらの善のパーティが最上層の探索に出発したのだった。

しかし翌朝、一行は消息を絶った。捜索隊が急ぎ組織され、ハイランスの指揮する三隊の善のパーティが迷宮へと向かう。一方身動きの取れぬジヴラシアとディー、ザザは王宮に召喚され、王国の統治者ベイキ女王との謁見を行っていた。そこに善のパーティのひとりアルタリウスが現れるが、それはすでにアルタリウスではありえぬ奇怪な生物と化していたのであった。分裂、増殖を繰り返す妖獣に苦戦しながら、重傷を負い生還したマイノスの援護で辛くも女王を救う三人。もうひとりの妖獣エレインが冒険者の宿に向かったのを知り、ジヴラシアとディーはすぐさま転移の呪文で跳ぶ。しかし時すでに遅く、残留組の悪の冒険者は全員妖獣の餌食となっていた。分裂した妖獣たちを全滅するべく、ディーは爆炎の呪文で宿を焼き払う。ジヴラシアは逃げ出したエレインを屠ったが、同時に石化され、同化されかけたところを謎の男に助けられた。その夜、王宮ではマイノスが持ち帰った神秘の宝珠を用い、異変の原因を報告するための晩餐が開かれたが、そこで賢者たちが告げたのは間近に迫る大破壊であった――。

主な登場人物

- ●ジヴラシア……主人公。レベル13の忍者。悪・人間族。この物語の〝俺〟。
- ●ガッシュ……レベル15の戦士。中立・人間族。
- ●ザザ……レベル13の僧侶。悪・人間族。
- ●ディー……レベル13の女魔術師。悪・エルフ。
- ●マイノス……レベル12のロード。善・人間族。
- ●フレイ……レベル13の盗賊。中立・ホビット。
- ●ボルフォフ……レベル13の戦士。中立・ドワーフ。
- ●アルタリウス……レベル13の僧侶。善・ノーム。
- ●エレイン……レベル13の魔術師。善・エルフ。
- ●ハイランス……レベル13の侍。中立・エルフ。他のパーティを率いる。
- ●ベイキ女王……リルガミン王国の若き女王。
- ●ル'ケブレス……迷宮を支配する龍。〝平衡〟の守護者。

WIZARDRY Ⅱ

風よ。龍に届いているか

雷の力が夜闇を切り裂いて国中を昼のように照らし、水は低所から高所へと流れ、食用となる動植物は通常の数十倍の早さで成長する。古代の超魔法が衰えていなかったその時代においてさえ、そこで用いられた秘術は群を抜いて高度なものだった。グニルダの杖に匹敵する防護魔法をも備え、その繁栄は何者にも侵されることなく続くかと思われた。

だが、今から数千年前、一夜にしてその国は滅亡した。

それは魔法の恵みを享受することに慣れ、驕り高ぶった人間に対する神々の怒りだったのか――。

いかなる秘術をもってしても、決して避けることのできぬ老いと死。

全てが満たされた生活に飽き足らなくなった賢人たちは、こぞって生命の理を超越する研究に手を染めたという。

それを克服する方法――即ち不老不死を求めて、禁忌とされる神の領域を彼らは冒していた。

繰り返される実験と新たな魔術。それらは次第に道徳性を失った、邪な暗黒の呪術へと暴走を始めた。そして運命の夜、実験室のひとつでついに生まれてはならないものが誕生したのだ。

不死族――邪悪な魔力の波動を糧に、血の流れと呼吸なしに活動する負の生命体。命あるが故に死を迎えると考え、死に等しい状態で不老不死を実現しようと造り出されたのが、今や命あるものの天敵とも言うべきこの化物だった。

ゾンビや灰造人などの低級な傀儡から、屍に霊魂の類が取り憑いた死霊系、さらにほとんど実体を持たない幽霊系など現在では多種の不死怪物が知られているが、それらの頂点に君臨する強力な存在がこの時産み落とされたという。そしてそれは、生まれながらに人間を超越した能力を身につけていた。

解き放たれた不死の魔王は、まず生みの親である魔導師を殺し、その魔力によって己の眷属の一人目とした。配下となった魔導師は別の人間を殺し、それもまた不死の魔物として蘇る。不死王から発される波動が倍々に増える犠牲者を闇の生命として復活させ、その夜のうちに国から生きた人間は消滅した。不死族の国となったのだ。

その国の名が確かファールヴァルトだった。

寝つきの悪い子供をたしなめる寓話の類だと思っていたが、そこを故国だと名乗る男が失われて久しい呪文を行使しているさまを目の当たりにしては、さすがに頭から笑い飛ばすことのできない話だ。

だが、ならば滅亡から気の遠くなるような歳月を経た今、どうしてその住人がここに姿を現せると言うのか。それとも〝森の彼方の国〟は滅びてはおらず、現在も超魔法の数々が受け継がれているのだろうか。

「信じろとは言わぬ」

空中から、楽しげな声が響いた。「さりとて、これ以上詮索に答える義務があるとも思えんが」

「詮索のつもりはねえよ。あんたが答えたくねえなら、無理に、とは言わねえ」

俺は数歩下がって言った。「その高さじゃ首が痛くてね。そいつ――浮遊の呪文を使うと、高度の調節は効かないのかい？」

アドリアンは片手で簡単な印を切った。見る間に高度が下がり、地上すれすれに留まる。

「本来なら地表から十数センチ程度反撥するだけの呪文だ。円柱の高さを維持してはいたが、二分とは持たぬ」

「飛行の上昇が目的の呪文ではないようね」

「ほう」

ディーの指摘に、アドリアンは軽く眉を動かした。「頭の回転も早い。その通り、むしろ移動時の物音を消し、罠への落下を避けるための戦闘補助呪文の一種だ」

「他にも、失われた筈の呪文を知っているの？」

熱っぽい口調だった。どうやらディーは、自分の知らぬ呪文に激しく興味を惹かれたらしい。

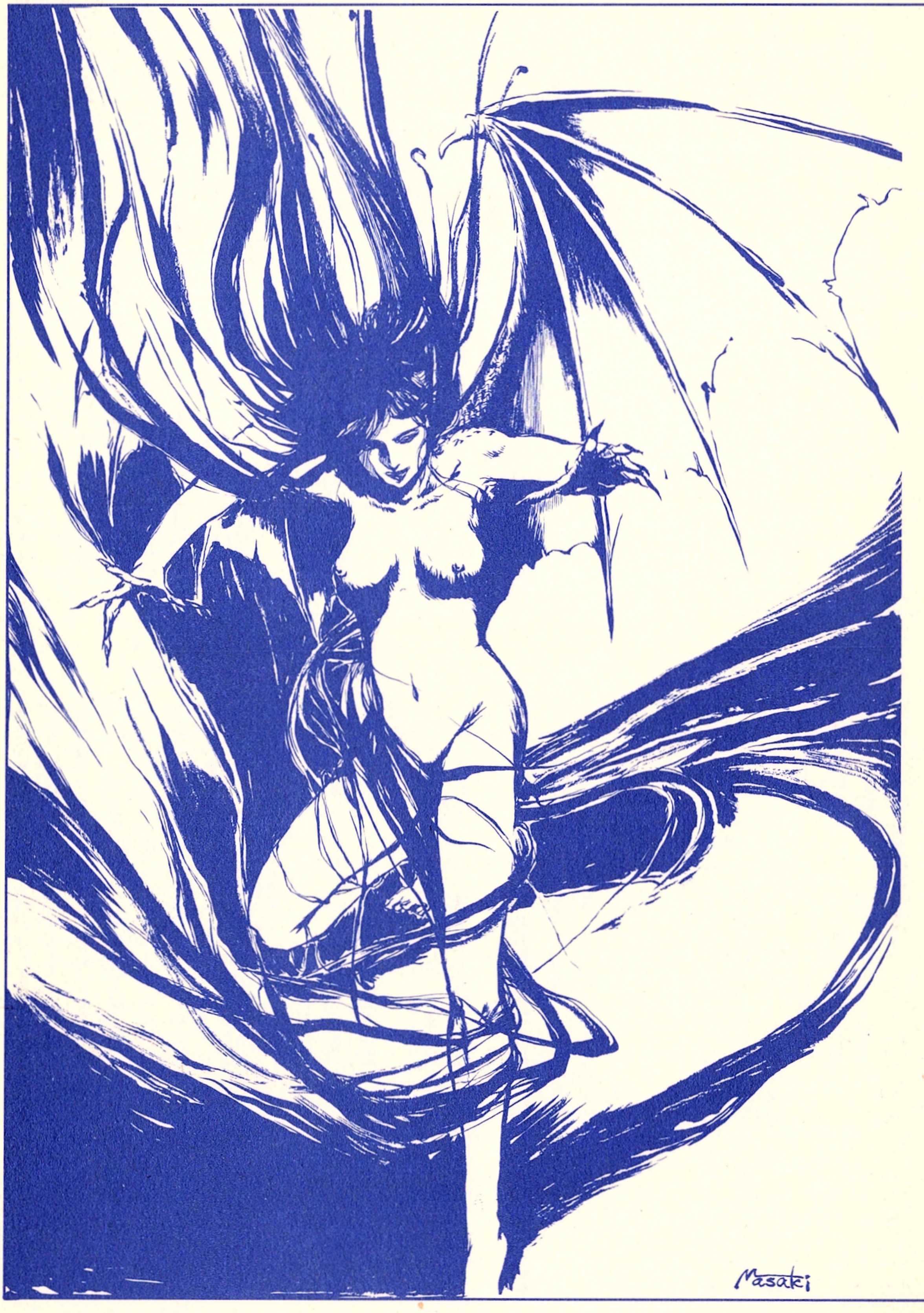
「私にとっては失われてなどいないがね」

「俺を助けてくれた時の、あの光もその呪文のひとつなのか」

俺は、分裂直後とはいえあのしぶとい妖獣を一撃で粉砕した緑の閃光を思い起こした。「それとよ、あんたは俺を知ってるような口振りだった

ぜ。何故だ？」
「やはり質問攻めではないか」
アドリアンが苦笑した。ふと、その表情が人間味を帯びたものになる。
「すまねぇ」
「いいだろう。あの呪文は鬼神拳撃――単体用の破壊光波だ」
知っているか、というようにディーに一瞥をくれ、アドリアンは言葉を継いだ。「そこそこの威力はあるが効果範囲が狭過ぎてな。あのような状況以外では滅多に使えぬ攻撃呪文だ」
「――何かの文献にあったわ。でも、それもとっくに廃れたと……」
「同レベルの猛炎や小凍のほうが使い出があるからな。それも自然なことだ」
言って、俺に向き直った。
「そして、ジヴラシア。もうひとつの答えだが、私が貴様の名を知ったのはたった今だ」
「だがよ――」
炎上する宿で、俺を助けた甲斐があったと言った筈だ――そう続けようとした俺をアドリアンが遮る。
「しかし、貴様という存在は知っていたと言える。名は知らずともな」
「――どういう意味だ？」
「魂は受け継がれる、ということだ」
アドリアンは謎めいた微笑を浮かべた。
「――？」
俺とディーは顔を見合わせた。
それに構わず、アドリアンは俺たちにゆっくりと背を向け、例の円柱の後方を眺めた。
「質問は打ち切りだ。時が、近づいている」
静かなバリトンが、霧に煙る廃墟に谺する。
アドリアンが、何を見ているのか。俺も同様の方向に目を向けた。
天空高くに輝く月と、か細く光る初秋の星々。その下に、白くわだかまる霧の帳。
それ以外には、何も見えぬ。
「ちょっと、時って――」
言いかけたディーが、急に黙り込む。
その理由は、俺にも判った。
からん、とどこかで、瓦礫の小片が転がり落ちた。
それが合図だったかのように、グニルダ寺院の広大な廃墟のあちこちで、無数の瓦礫の山が小波のように細かな音を立て始める。
地震だった。
夜明けの地震以来、初めてのものだ。が、迷宮入口の落盤まで引き起こしたあの揺れに比べれば、小妖精の欠伸にも等しい微震に過ぎない。
数秒で、振動は治まった。
今朝の地震で不安定なものはあらかたなくなったのか、円柱や大振りの瓦礫が崩れた形跡はない。からからと幾重にも響く物音も、わずかに遅れて鳴り止んだ。
ディーが、深く吸いこんでいた息を吐きだした。
「さすがに緊張したわね」
今のが大破壊だったら――そんな意味を言外に含んだ呟きだった。はっきりと口に出さないのは、大破壊の件に関しては五賢者から箝口令が敷かれているからだ。
現時点でも、リルガミン市の平穏は辛うじて保たれているに過ぎない。市内には異変に追われた避難民が溢れており、長期に渡る食料管制からも日々危機感は高まりつつあったのだ。
その均衡を維持していたのが、俺たちの宝珠の探索だった。宝珠を用いて原因が究明できれば、必ずや異変を食い止めることができる――賢者会議がリークしたこの希望的観測だけが、人々の唯一の心の支えとなっていた。
だが、明け方の大規模な地震以降、人々の不安を掻き立てる情報が市内に少なからず流れている。
梯子山山頂の奇怪な発光現象と、俺が目にした嘆きの精の噂。昼過ぎには冒険者の宿が炎上し、数名の冒険者が死亡。さらにはどこの馬鹿衛

風よ。龍に届いているか



士が漏らしたのか、迷宮の落盤の件もすっかり街中に知れ渡っていたのだ。

これは俺が石化している間の話だったのだが、あまりの不安材料に一時市内はパニックに近い状態になったらしい。盛大に尾ひれのついた流言が飛び交い、市街の何カ所かで小規模な暴動も起きたと聞いている。賢者会議が迅速に宝珠発見の布令を出したおかげで事態は収拾したものの、この対応がなければ今頃リルガミンはどうなっていたか判ったものではなかった。傷を負いながらも生還したマイノスの姿を市民が目撃していたのも、発表に信憑性を与える好材料になった。

現在のところは、市民は努めて平静を装っている。が、それはいつ王宮から異変の鎮静化が告げられるかと、その期待で静まっているだけのことだ。

そこで、大破壊の件が漏れたとしたら——。

もはや天変地異を止める手立てはなく、その最終的な大災害が間近に迫っていると——そう知らされた時、果たしてどれだけの者が理性を失わずにいられるだろうか。

それ故に賢者から口を噤んでくれと頼まれたのだが、いくら身勝手な悪の戒律の俺たちと言えども、こればかりは言われなくてもわきまえているつもりだ。同じ破滅でも自滅などは御免だった。

だからこそ、次のアドリアンの言葉に俺たちは愕然とする羽目になった。

「どうやらこの街にも、明らかな大破壊の兆を読み取った者がいるらしいな」

背を向けたまま、アドリアンは興味深そうな口調で呟いた。「貴様たちは半ば覚悟を決めている様子だ。死を突きつけられているにしては面白い」

「あんたは——知ってるのか」

言葉を失いながらも、俺は何とかその背中に問いかけた。

「聴こえただろう」

首を巡らせ、端正な横顔を見せてアドリアンは言った。伏せかけた長い睫毛の奥で、切れ長の瞳が妖しい光を湛えている。

「大地の底より轟く苦悶の響きを。大破壊とは、即ちこの天地が滅ぶ際の断末魔——その時が至るのも遠いことではあるまい」

神託を告げるかの如く、その言葉は冷えた夜気の中に反響する。

「星の力を司る神龍ル・ケブレスすらも、今やこの大地を守る術を失いつつある。この都市の守護神グニルダの力も、死にゆく大地を支えることは叶わぬ——」

言いながら、アドリアンは再び円柱の方向に向き直った。白い指が、その後方の一点を指し示す。

「見るがいい」

促され、俺たちは指の示す先を凝視する。

先刻、これといったものは何も見当たらなかった方向だ。

だが——。

満月の下方、霧の上方の夜空に、見覚えのある光が見えた。

禍々しさを孕んだ赤い怪光——それは、明け方の地震の後に見たものと全く同じ現象だった。

「あれこそル・ケブレスが流す血の光だ。それが尽きた時、この大地からあらゆる恩恵が消え、全ての民が滅びを迎えるだろう」

アドリアンの声が響き渡る中、梯子山の山頂が遠く光を放っていた。

風が、狂ったように吹いていた。

俺は、垂直な岩壁のわずかな足掛かりにしがみついている。

見上げれば、無限とも思える絶壁が暗い鈍色の空へと続いている。

足下には数百メートルの断崖を隔てて、堅い大地が俺が叩きつけられる時を今か今かと待ち続けている筈だ。

梯子山の壁面を、俺は攀じ登っているのだ。

だが、もはやこれ以上攀ることはできなかった。

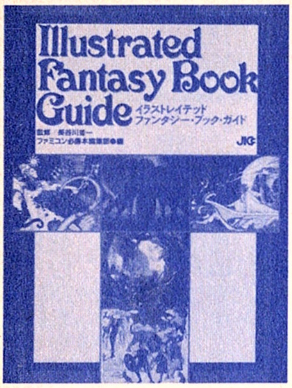
全身が、激しい虚脱感に包まれていた。鍛え抜いてきた肉体から、力という力が抜け落ちていく気分だ。

WIZARDRY Ⅱ

風よ。龍に届いているか

岩壁を摑む指先も、すでに感覚が麻痺している。
どこにも、身を休めるだけの足場などありはしなかった。
突風から身を守る術もない。力尽き、吹き剝がされて落下するのは時間の問題だった。
——俺は死ぬのか。
唸りをあげて吹きつける風に目を見開き、俺は漠然と考えていた。
大破壊が訪れれば、どのみち死ぬだろう。今死んだところで、少し早い程度の違いしかない。
だが、これが俺の望んでいたことなのか？
不可能だと判っていたマイノスの提案に乗り、挙げ句に断崖から墜落して死ぬことが。悪の戒律の俺が仲間を救うという美挙に酔い、結局全身の骨が砕け、内臓が潰れ、地面の罅に血を吸わせてくたばることが。
違う。俺の望みは——。
〝望みは、何？〟
吹き荒ぶ風音に混じり、ばさりと大気を打つ羽音と、甘い囁きが耳に届いた。
〝言っておしまいよ。それで、助かるばかりか望みまでが叶うんだよ〟
目の前に、あの夢魔がいた。
荒れ狂う風をものともせず、その背に生えた巨大な皮の翼を羽ばたかせて、夢魔はあの時と同じ裸身を虚空に留めている。
〝まだ、ためらうのかい？〟
応えぬ俺に、夢魔はふわりと近づいた。
〝それとも、恐怖で頭が回らなくなったのかね。それじゃああたいが教えてやったっていいんだよ——〟
下卑た含み笑いをしながら、淫らに紅い唇を俺の耳元に寄せる。〝あんたの望みはね、悪の戒律の誰だって思いもよらないほどどす黒い欲望なのさ。仲間を救いたいんじゃない。仲間を——〟
「黙れ！　下衆な淫売魔女が！」
そう叫んだ瞬間、俺の躰は岩壁から離れていた。
落下している。全身の血が逆流し、背骨が抜かれるような感覚が俺を襲う。
地面が、急速に迫ってくる。
くくく、と嗤う声がする。
見ると、俺の横を落下と同じ速度で、夢魔が降下していた。
〝それならね、地面に着くまでに、潰れるよりもっと無残に、あんたを殺してあげるよ〟
にいっと歪めた唇の間に、白く長い犬歯が覗く。真っ赤な鋭い爪が、俺の首筋目掛けて蛇のように伸びてきた。
その夢魔の躰が、突如雷に撃たれたかのように痙攣した。
〝かかっ〟
声にならない悲鳴をあげ、夢魔は激しく身悶えた。
〝な、何だ、この痛みは？　ここは夢の世界、あたいの自由になる世界なのに！〟
落下は、すでに止まっていた。
天が裂け、大地が割れる。梯子山は崩壊し、全てがひとつに混じり合う。
〝罠に陥ちたのは、あなたなんですよ〟
混沌の中心から、男の声が殷々と轟いた。
〝もう目を覚ましても構いません。捕えました〟
「ありがてえ」
俺は応え、夢の世界から抜け出した。

（次号につづく）



数々の幻想的イラストが誘う、ファンタジー世界。
イラストレイテッド ファンタジー・ブックガイド

ファミコン必勝本編集部・編
長谷川並一・監修
定価1000円

世界の傑作ファンタジー小説を超美麗イラストレーションとともに紹介！　ファンタジー小説入門ガイドの決定版だ。「指輪物語」「ゲド戦記」他、名作多数収録！！



CGを超えた、電脳世代のファンタジーアート！
アリスの電脳遊園地

品川るみイラスト作品集
Ｂ５豪華保存版
定価1000円

壊れた機械の夢。混沌の沼。時間を紡ぐ塔。機械に蝕まれてゆく森。狂える女王の世界をアリスは救えるか!?　品川るみが描く超絶無限方向フルスクロールコミックス！！



ゲームフリークたちの青春ドラマチックエッセー。
パックランドでつかまえて

田尻智・著
定価900円

本誌に連載され人気を呼んだ同名エッセーの単行本化です。ホットでキュートで、ちょっぴりナイーブなゲーム少年の日々が、キラキラと輝いています。テレビゲームが大好きな人達へ、田尻智からの贈り物。



楽しく、わかる！　新感覚コンピュータ用語辞典。
初級COM用語入門講座

タイレル辻・著
定価780円

わかりやすく、ユニークに、タイレル辻がコンピュータ用語を解説します。エッセーとして楽しみながら、いつの間にかコンピュータのすべてが具体的にわかる。そんな本です。唯一無比の新タイプ解説書！



ゴジラフリークの手によるゴジラコミック作品集。
THE ゴジラ COMIC

作・実相寺昭雄ほか
定価980円

デタントの波が押し寄せようが、原発がぼこぼこ完成しようが、とにかくゴジラの魅力は不滅です！　ギャグ、シリアス、サスペンスタッチ……個性あふれるゴジラを題材としたコミックが、どっさり。



潜在意識を直撃！　これぞサブリミナルコミック。
やんちゃブック

作・天久聖一
定価780円

今は無きパンチザウルスやロッキンコミックといったクセのあるコミック誌でカルト的人気を誇る、天久聖一短編集。描き下ろし作品も収録。彼が真の天才であることを、この単行本で知れ！



安西水丸が描く、おもしろ普通常識マンガ。
普通の人

作・安西水丸
定価980円

アイデアと気合いがギャグに収斂しない。だから、10回読んでもおもしろい。宝島本誌ＶＯＷでもお馴じみ安西水丸の待望の描き下ろし。下描きなしで一気に仕上げた「普通の人」じゃできない「普通の人」28本。



新生UWFの激動の時代を、この一冊にファイル。
UWF創世紀（アンリミテッド）

宝島
ミックスインターナショナル・編
定価2000円

1988年５月12日、ＵＷＦ旗揚げ以来むき出しの闘いを続けるＵＷＦ。前田、高田、山崎、激動期の凄絶なファイトを捕えた白熱の写真集だ。著名ファンからのメッセージも熱い。

通信販売フェア

本屋へ買いに行きたいが、なかなか暇がなくて行けない。本屋に行ってもいつも売切。そんなあなたのための通信販売です。

上記書籍をご希望の方は、小社まで直接お申し込み下さい。お申し込み方法は、ご希望の書名、冊数、送り先を明記の上、現金書留か郵便振替にて、定価＋送料（１冊で￥310、２冊で360円）を当社までお送り下さい。宛先・〒102 東京都千代田区麹町5-5-5 JICC出版局通信販売係☎03-234-4621 振替＝東京7-170829(株)ジック

JICCの良質本を確実に手に入れるチャンス！

書店で見つけられない、注文方法がわからない、そんな声におこたえします。

L.ブリティッシュの創造したパソコン版ウルティマIIIの世界をコミック化。



コミック版
ウルティマ①
エクソダスの恐怖

作・田中成治
原案・L.ブリティッシュ
定価906円

　聖惑星ソーサリアに封じこめられたエクソダスとは何か？　死闘につぐ死闘の果てにまちうけているのは何か!?　真実を求め、今、勇者たちの冒険が始まる。

パソコン版ウルティマIVをコミック移植。聖者への道、その彼方に…!?



コミック版
ウルティマ②
クエスト オブ アバタール

作・田中夕子
原案・L.ブリティッシュ
定価900円

　オリジナルの持つ深遠なるストーリー性を独自の解釈で磨ぎすまし、興奮と感動の物語として再生しました。コミックの表現を超えた迫力です！

ファミコンRPGのベーシック、その魅力と迫力を、この1冊で堪能！



コミック版
ゼルダの伝説

作・未将崎雄
定価900円

　ハイラルに迫まるガノンの魔手。トライフォースをめぐる魔族の陰謀を打ちくだくため、リンクが立ち上がる。冒険を重ねパワーアップするリンク、そしてガノンとの壮絶最終バトルの行方は……!?

同名小説をコミック化。想像を絶する驚愕のファンタジー世界がここに。



コミック版
最後の竜に捧げる歌

作・外薗昌也
原作・手塚一郎
定価900円

　生きながら石と化す竜。街を喰らい広がり続ける砂漠。襲いかかる魔獣の群れ。若き勇士アモンと不思議な少女ヴィジルの運命は!?　あの幻想物語を完全コミック化。

人類の本質に迫まる感動……これはRPG世代のための新たなる神話だ。



小説版
ウルティマ
クエスト オブ アバタール

井上尚美・著
定価980円

　人類の内なる悪徳を滅却し、真の聖者（アバタール）となるべく冒険の旅へ出発した８人の若者たち。目指すは遙かなる彼方、大深淵の奥底にある写本の間。彼らこそブリタニアの最後の望みなのだ。

RPGノベルズの旗手、手塚一郎の記念すべきデビュー作品がこれだ。



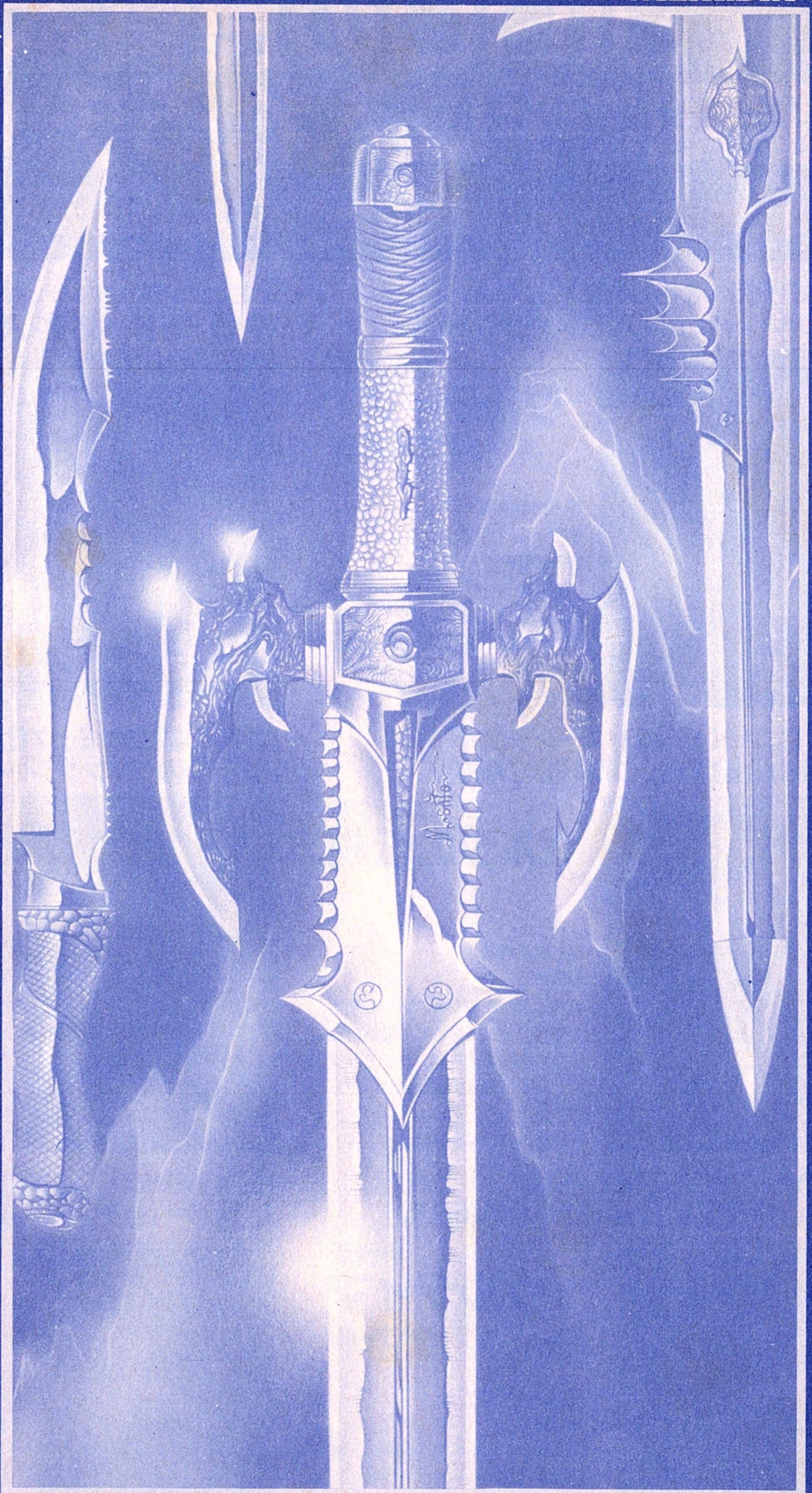
小説版
最後の竜に捧げる歌

手塚一郎・著
定価980円

　狩竜の一族の乱獲を恐れ、大樹ヴァルハラに群れているはずの竜が何故？　竜はアモンの見ている前で、近くの森へと降り立った。そこには、ヴィジルと名乗る少女との出会いが待っていた──。

特報!!
小説ウィザードリィ・シナリオ4「ワードナの逆襲」 手塚一郎・著
7月4日発売決定!!お早めにどうぞ!!

●本誌Vol. 2号で別冊ふろくとして登場した同小説に大幅な加筆!新たなウィズ世界に御期待ください!



▶ファンタジーランドは
(P100)からお読み下さい。